

# 法政大学学術機関リポジトリ

## HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-05

### 法政大學講義錄

秋山, 雅之介 / 山崎, 覚次郎 / 梅, 謙次郎 / 中村, 進午 /  
清水, 澄

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

1-9

(開始ページ / Start Page)

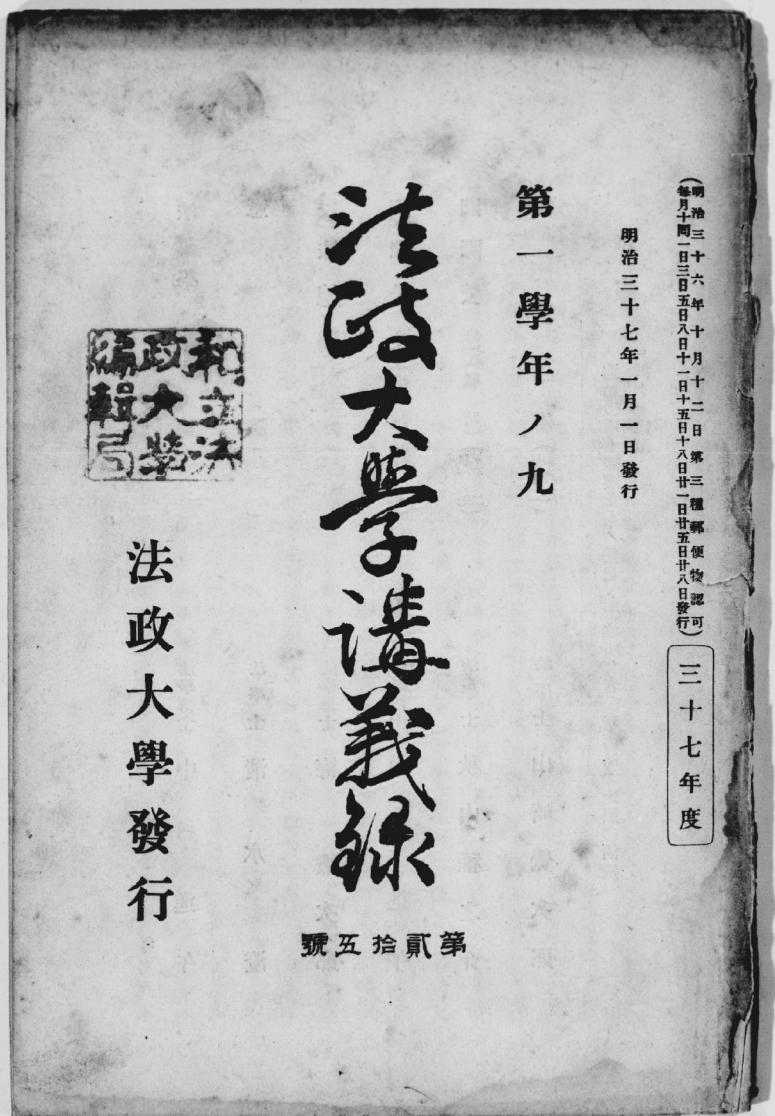
1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1904-01-01



第一學年第九號目次

法 學 通 論 (自五三至六四)

法學博士 中 村 進 午

法 (自五八至五九)

法學士 清 水 澄

民法總則 (自一〇一至一四〇)

法學博士 梅 謙 次 郎

國際公法 (平時) (自七七至七六)

法學博士 中 村 進 午

國際公法 (戰時) (自一二二至一九七)

法學士 秋 山 雅 之 介

經濟學 (自八八一至八八)

法學士 山 崎 覺 次 郎

(○迎新○地上權讓受人ノ登記ト土地所有者○新舊法ノ比照○清國ニ於ケル鐵道

雜報

普通法ヲ特別法ヲ區別スル實用ニ種種アリ雖モ其最モ重ナルモノハ兩者ノ效力ノ比較ニ在リ即チ同一ノ事項ニ關シ普通法ヲ以テ規定シタルモノト特別法ヲ以テ規定シタルモノアリテ此兩者カ互ニ相衝突スルトキハ特別法ヲシテ勝ツ占メシ云哉モノナリ此原則ヲ名外テ特別法ス普通法ニ勝ツト謂フ例入ハ如何ナル物ヲ以テ製造スル酒ニモ稅ヲ課スヘシ下ム法律アリテ之ト同時上甘蔗ヨリ製造シタル酒ニハ稅ヲ課セズドム法律アルドキハ甘蔗ヨリ製造シタル酒ニ莫稅ヲ課スルニ能ハサルモナリ又何人ト雖モ滿二十歳ニ達スレハ男子ハ兵役服をサルヘカラスドム普通法アリテ他方ミ於テ某某ノ學校ノ在學者ミハ滿二十歳ニ至ルマニ若與役ヲ猶豫スヘシトナルトキ誠當然特別法ヲシテ勝タ多喜矣キ羅ハ大男爵モ文書モ諸侯等友族モ餘支支派モ山陵天此ノ如ク特別法ハ普通法ニ勝ツトノ原則アリト雖モ其勝ツ場合ハ特別法ト一般法トカ共ニ同一ノ力アルモノナラサルヘカラス例ヘハ普通法カ狹義ノ法律ヲ以テ制定モラシ特別法カ命令ヲ以テ制定セラレ此兩者カ相衝突シタル場合ニ於テ特別法ハ普通法ニ勝ツドム原則ヲ適用シテ善キ能ベラムナガ例ヘハ

裁判所構成法ト憲法ト衝突シタル場合會澤ハ前者カ後者ニ對シテ特別法ナルニ拘ハラス憲法ニ打勝ツコト能ハサルカ如シオモニ此ノ事例は前記の如き者等の意見を以て之を解へバ其の主張は實質的なる事

## 第二節 成文法及ヒ不文法

成文法及ヒ不文法ノ區別ハ法律ヲ文書ニ記載シタルト然ラサルトニ由リテ生スルモノナリ記載シタルトハ法律タルノ效力アルモノトシテ記載シタルトノ意ナリ故ニ裁判官カ往意ノ爲メニ記載シタル覺書ノ如キ學者カ學問上參照ノ爲メ記載シタルモノノ如キハ皆成文法ト謂フコトヲ得ス古代ニ於テ人智ノ未タ進マス文字ノアラナリシ時代ニ於テハ成文法ナルモノナカリシト雖セん文ノ發達ニ從ヒテ法律ハ不文法ヨリ變遷シテ成文法ニ進ムモノナリ抑モ成文法ナルモノハ慣習並ニ裁判ニ比シテ遲ク發達シタルモノニシテ古ニ於テハ或行爲アル毎ニ各箇ノ場合ニ付キ君子其他ノ施政者カ判決ヲ下シタルモノナリ故ニ古ニ於テハ法律アリテ後裁判ヲ下シタルモノニ非ス却テ裁判ノ實例又ハ慣例カ集リテ國家ヲシテ法律ヲ文書ノ上ニ記載セシムルニ至リタルモノナリ

此關係ハ今日ニ於ケル法律上ノ原則ト正反対ナリ古ニ於テハ法律ノ明文ナキニ拘ハラス裁判官ハ判決ヲ下シ今日ニ於テハ法律ノ明文ナキ場合ニ於テハ殊ニ刑事上ノ問題ニ關シ裁判官ハ適用スヘキ法律ヲ發見スルコト能ハサルカ故ニ當然其罪ノ宣告ヲ下ササルヘカラサルモノナリ民事ニ付テハ法律ナキ場合ト雖モ裁判官ハ判決ヲ下スコトヲ拒ムコトヲ得ス詳言スレハ成文法ナキ場合ニ於テ裁判官ハ不文法ヲ適用スヘキモノナリ故ニ成文法ト不文法トノ效力ニ關シテハ成文法ヲ先ニスヘキコト今日ノ學說ニ於テ何人モ疑フ然マサル所ナリ何トナレハ成文法ハ國家カ一定ノ形式ニ依リテ特別ノ意思ヲ表示シタルモノナレハナリ明治八年第三百三十八號布告裁判事務心得第三條ニハ「民事裁判ニハ成文アルモノハ成文ニ從ヒ成文ナキモノハ慣習ニ從ヒ慣習ナキモノハ條理ニ從フ」トアリ此條文ニ特ニ民事ノ文字ヲ掲ケタルハ刑事ヲ除外シタルモノニシテ前ニ述ヘタルカ如ク刑事ノ裁判ハ成文アル場合ニノミ下スヘキモノナリ民法第九十二條ニハ「法令中ノ公ノ秩序ニ關セタル規定ニ異ナリタル慣習アル場合ニ於テ法律行為ノ當事者カ之ニ依ル意思ヲ有セルモノト認ムヘキトキハ

其慣習等從乙ト不然ハ當事者イ意思ノ以テ成文法ヲ從ニヨト要セサバ場合  
又特ニ規定シタルモノ有り故ニ當事者ニ此モ如キ自由ヲ與ズベハ其行爲カ公  
ノ秩序ニ反セサル場合ニ限リ矣然レバ人方ナムニシテ合ニシ可大ヘキ事也  
以上ニ述ヘタルカ如ク法律ナ不文法ヨリ成文法ニ進む者也亦即不文法ハ慣習、  
裁判例學說等ヨリ導克レ來ルモナカリ法律ハ何皆ノ國ニ於テモ初メ不文法ナ  
リト限ルモノアリ非不近代ニ於テ新ニ成キシタバ國家ニ於テハ國家復其成立ト  
同時ニ成文法ヲ作ルモナ最モ多シ又從來成文法ナリシモノカ不文法ト爲川場  
合方キニ非ス例ヘガニ國カ本國ヨリ分離シテ成立シ各國ニ於テハ分離國  
人法律ナ從來メ本國ニ成文法トシテ採用シタルモナカリ不文法ナリト適用スル  
ヨリ最モ多シ又一國ニ成文法カ他國ニ成文法ノ源流爲ル場合極矣モシ是レ  
法律ノ繼承ヨリ生スル自然ノ結果ナリ例ヘハ佛蘭西ノ刑法タリ我國ノ刑法ノ源  
ト爲リシカ如キ獨逸ノ民事訴訟法カ我國ノ民事訴訟法ノ源ト爲リタバカ如キ  
皆是ナリ大抵世界へ傳來スル事也今日本ノ判例ハ同文法等融合ニ於テ其義長  
不文法上成文法ナリ利害得失各相争スルモナカリ不文法ハ成文法ノ如ク確定

動ネカラサケモイニ非スシテ世ノ變遷ト共ニ推移スルコトヲ得ルモノナル  
カ故ニ若シ不文法ヲ適用スル裁判官タ正明ナシトキハ却テ成文法ニ拘束セラ  
ルベニ比シテ勝リタルモナリト雖モ若シ裁判官カ邪曲ナルコトアレハ却テ  
法律ヲ濫用シ不文法ハ之カ爲メニ曲者ヲ比競スルノ具ト爲ルシ之ニ反シテ  
成文法ハ確實ニシテ曖昧ナラス邪曲ナル裁判官ト雖モ自己ノ主意ニ依リテ之  
ヲ動スコト能ハサルノ利益アリ然レトモ裁判官ハ成文法ニ拘束セラレテ便宜  
ナル裁判ヲ爲スコト能ハサルノ不便アリ短簡ニ言ハ裁判官ハ法律ノ文字ニ  
拘泥セサルヘカラナルノ缺點アリ又特ニ刑事ニ付テ言ヘハ刑罰法ヲ成文法ノ  
ミトスルトキハ刑罰法ノ規定外ニ於テ惡事ヲ爲シタル者アリト雖モ之ヲ罰ス  
ルコトヲ得オル處アリ是レ蓋シ成文法ノ缺點ナリハ其弊大體ナリ其對應國

動ネカラサケモイニ非スシテ世ノ變遷ト共ニ推移スルコトヲ得ルモノナル  
カ故ニ若シ不文法ヲ適用スル裁判官タ正明ナシトキハ却テ成文法ニ拘束セラ  
ルベニ比シテ勝リタルモナリト雖モ若シ裁判官カ邪曲ナルコトアレハ却テ  
法律ヲ濫用シ不文法ハ之カ爲メニ曲者ヲ比競スルノ具ト爲ルシ之ニ反シテ  
成文法ハ確實ニシテ曖昧ナラス邪曲ナル裁判官ト雖モ自己ノ主意ニ依リテ之  
ヲ動スコト能ハサルノ利益アリ然レトモ裁判官ハ成文法ニ拘束セラレテ便宜  
ナル裁判ヲ爲スコト能ハサルノ不便アリ短簡ニ言ハ裁判官ハ法律ノ文字ニ  
拘泥セサルヘカラナルノ缺點アリ又特ニ刑事ニ付テ言ヘハ刑罰法ヲ成文法ノ  
ミトスルトキハ刑罰法ノ規定外ニ於テ惡事ヲ爲シタル者アリト雖モ之ヲ罰ス  
ルコトヲ得オル處アリ是レ蓋シ成文法ノ缺點ナリハ其弊大體ナリ其對應國

### 第三節 固有法及ヒ繼承法

交通ノ頻繁ナル時代ニ於テハ如何ナル國家ト雖モ純然タル固有法ノミヲ有スルモノ、極メテ稀ナリ然リト雖モ又悉ク外國ノ法律ノミヲ摸倣シテ毫モ自國ノ固有ナル分子ニ重キヲ置カナル法律モ亦殆ト稀ナリ例ヘハ我國ニ於テハ民法ノ中親族、相續ニ關スル規定ノ如キハ固有法ノ分子多ク其他ノ部分ニ付テハ繼承法ノ分子ヲ多シトス或國ノ法律ノ如キハ外國ノ法律ヲ翻譯シテ其儘自國ノ法律ト爲シタルモノアリ例ヘハ「バーデン」ノ舊民法白耳義ノ民法ノ如キハ皆佛蘭西民法ノ翻譯ナリ加之白耳義民法カ法文ニ擬アルトキハ佛蘭西民法ヲ見ルヘシト定メタルカ如キハ繼承法ノ最モ甚シキモノト稱セサルヘカラス  
繼承法ト固有法トヲ區別スルノ實益ハ法律解釋ノ問題及ヒ法律ノ效力ヲ研究スル場合ニ在リ固有法ヲ解釋セントスルニハ自國ノ社會上ノ狀態ニ重キヲ置クヘタ繼承法ヲ解釋スル場合ニハ外國ノ法律カ發生シタル理由ニ重キヲ置カサルヘカラス又繼承法ヲ研究セントスルニ當リテハ其源ニ遡リテハ繼承セラレタル法律ヲ研究セサルヘカラス例ヘハ日本ノ民事訴訟法ヲ研究スルニ獨逸ノ民事訴訟法ノ研究ヲ必要トスルカ如キ是ナリ

法律ノ繼承ニ由リテ母法ト子法トノ區別ヲ生ス繼承セラレタル法律ヲ母法ト謂ヒ繼承シタル法律ヲ子法ト謂フ例ヘハ歐羅巴諸國ノ法律ハ羅馬法ニ對シテ子法ニシテ羅馬法ハ歐羅巴諸國ノ法律ニ對シテ母法ナリ佛蘭西ノ刑法ハ日本ノ刑法ニ對シテ母法ニシテ日本ノ刑法ハ之ニ對シテ子法ナリ若シ夫レ日本ノ繼承法ヨリ羅馬法ヲ觀レハ母法ノ母法ト爲ル此ノ如キ繼承ヲ名ケテ間接繼承ト謂ヒ單ニ子法ト母法トノ關係ヲ生スル繼承ヲ直接繼承ト謂フ

#### 第四節 實體法及<sup>ヒ</sup>形式法

實體法トハ權利義務ヲ定メタル法律ニシテ形式法トハ實體法ヲ補助スル法律即チ權利義務ヲ實施スル手續ヲ定メタル法律ナ更其上更其上實體法ニ實體法者或ハ實體法ニ定メタル權利ヲ侵シ義務ヲ怠ミタル場合ニ之ニ對スル制裁ヲ加スル方法ヲ規定シタルモノノミカ形式法ナリト曰フト雖モ形式法ノ範圍ニ比シテ更ニ廣大ナルモノナリ例ヘハ控訴ノ期間ヲ定メタルカ如キ或ハ書類ニ認ムヘキ方式ヲ定メタルカ如キハ皆制裁を加ヘサルモノナリト雖モ形

式法ナリ例へハ民法、刑法ハ實體法ニシテ民事訴訟法、刑事訴訟法ハ形式法ナリ。憲法ハ實體法ニシテ訴訟法、選舉法ノ如キハ形式法ナリ。此ノ如ク法律ヲ分チテ此兩者ニ區別スルコトヲ得ヘシト雖モ總ノノ法律ハ必スシモ實體法ノ部分ノミヲ含ムモノニ非ス又必スシモ形式法ノ部分ノミヲ含ムモノニ非ス例へハ民法ノ中ニ婚姻ノ實質上ノ要件ト形式上ノ要件トヲ併セ規定スルカ如シ是故ニ此兩者ノ分類ハ實質ヲ主トスルカ形式ヲ主トスルカト云フニ重キヲ置キテ立タタルモノニ過キス又此兩者ヲ區別スルノ實益ハ形式上ノ法律ハ實體法ニ比シテ比較的ニ輕シト云フニ在リ。

### 第五節 公法及ヒ私法

公法私法ノ區別ニ關シテハ羅馬ノ古ヨリ今日ニ至ルマテ學者ノ間ニ種種ノ標準ヲ付セラレタリ然レトモ學說上此區別ノ標準カ未タ確定シタリト謂フコトヲ聞カヌ茲ニハ古ヨリ行ハルル種種ノ學說ヲ列舉シテ其缺點ヲ舉タルニ止ム

第一說 利益ヨリ觀タル區別說

此學說ハ羅馬ノ「クダビ古王ヌヌ」考ニ出テタルモノニシテ氏ハ羅馬ノ國事ニ關スル事ハ公法ニシテ一箇人ニ關スル事ハ私法ナリト曰ベリ後ノ學者之ヲ敷衍シテ公益ニ關スル法律關係ヲ規定シタルモノハ公法ニシテ私益ニ關スル法律關係ヲ規定シタルモノハ私法ナリト曰フ者多シ故ニ例へハ政府ヲ顕覆ゼントスル者強盜ヲ爲ス者ノ處罰ヲ定メタル法律即チ刑罰法及ヒ國家ノ政治上ノ事件ニ關スル事ヲ定メタル法律例へハ衆議院議員選舉法ノ如キハ公法ニ屬シ賣買貸借ノ關係相續夫婦親子ノ關係ヲ定メタル法律ノ如キハ皆私法ナリト曰フナリ然レトモ茲ニ或一箇人ノ關係ヲ取リテ之ヲ研究スルニ必スシモ單ニ公益ノミニ關スルモノナク又單ニ私益ノミニ關スルモノナシ要スルニ多クノ關係ハ公益ニモ私益ニモ併ニ關スルモノナリ例へハ國事犯罪者ヲ處刑スルコトノ如キハ國家ノ利益ニ關スルコト勿論ナリト雖モ箇人モ亦之ニ依リテ其利益ヲ保護セラルドモノナリ何オナシハ箇人モ亦國事犯罪者ノ兇徒嘯衆等ノ爲シニ其財產ノ安固ヲ害セラルルコトアリハナリ又賣買ノ如キハ賣主ト買主ニ間ノ私益ノミニ關スルモノナカ如シト雖モ賣主カ品物ヲ引渡サヌ買主カ代價

ヲ支拂ヘナルカ如キコトアラム之カ爲謀ニ國家ノ經濟ヲ棄シ國家ノ生存ヲ不  
安全ト爲ズノ虞ナシトセス故ニ獨逸ノ「イエーリング」如キ英吉利ムオースチ  
シノ如キ學者ハ公益ハ私益ノ集合財タルモノナリト稱シ隨フ公益ニ關スルモ  
ノハ公法ナリ私益ニ關スルモノハ私法ナリトノ標準ノ誤謬ナガコトヲ示セリ』  
是ニ於テ一種ノ折衷論者ハ直接ニ公益ニ關スルモノハ公法ニシテ直接ニ私益  
ニ關スルモノハ私法ナリト曰ヘ當然レトモ所謂直接間接大ムコトノ區別明白  
カラナルカ故ニ此說モ亦決シ並程當カベモ本ニ非スニシテ然ニ公法  
又或學者ハ民事訴訟ニ依リテ救濟シ得ヘキ權利ヲ定メタルモノハ私法ナリ然  
ラサルモノハ公法ナリト説ケリ然レトモ此說ハ毫モ價値ナキモノナリ何トナ  
レハ私法上ノ權利關係ナムカ故ニ民事訴訟ニ依リテ救濟セラルモノニシテ  
民事訴訟ニ依リテ救濟セラルカ故ニ私法ナリト曰フヘ一種ノ循環論法ニ陷  
ルフ以テカリ開スカ其釋義を詳説シテ又ノハ公法ニシテ然ニ公法ニシテ  
第二說ニ法律の應用ヲ權利者ニ委スル否トニ依リテ區別スヘシトヲ説  
此說ニ依リテ一箇人カ自己ノ任意ニ拋棄スルコトヲ得ナル權利ヲ定メタルモ

ノハ公法ニシテ自己ノ任意ニ拋棄スルコトヲ得ヘキ權利ヲ定メタル法律ハ私  
法ナリト云フニ在リ更ニ詳言スルハ或法律ノ應用カ權利者ニ委シラシタルモ  
スハ公法ニシテ權利者ニ委シラシタルモノハ私法ナリト云フカリ例ヘハ貸借  
ノ關係ヲ定メタル法律ノ如キハ此說ニ依レハ私法ナリ何トナレハ貸主タル權  
利者ハ自己ノ債権ヲ拋棄スルコトヲ得レハナリ之ニ反シテ刑法ノ如キハ公法  
ナリ何トナレハ人ヨリ傷ケラレタル者ハ自己ノ任意ニ加害者ヲ許スコト能ハ  
サレハナリ然レトモ此區別ニハ多少ノ例外ナキコト能ハス例ヘハ何人ト雖セ  
選舉法ヲ私法ナリト曰フ者ナシト雖モ箇人ハ選舉權ヲ拋棄スルコトヲ得ヘシ  
又親告罪ニ關スル訴權ノ如キハ公權ナリト雖モ之ヲ拋棄スルコトヲ得ルモノ  
ナリ更ニ進ミテ或學者ハ箇人ヲシテ私權ヲ拋棄セシムヘキモノニ非スト曰ヘ  
リ例ヘハ獨逸ノ「イエーリング」カ私權ヲ侵シタル者ニ對抗不ルハ權利者カ自己  
ニ對スルノ義務ナルノミナラス併セテ共同體ニ對スル義務ナリ一箇人ハ其權  
利ヲ守ルト共ニ法律ノ秩序並ニ共同體ノ秩序ヲ保全スルモノナリト曰ヘルカ  
如シ端開示人或之ノ關節を缺武ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

第三說　國家ト人民トノ關係ヲ規定シタルモノハ公法ニシテ人民ト人民トノ  
間ノ關係ヲ規定シタルモノハ私法ナリトノ說金文書の本義此說ハ英吉利ノ「ホルラン下佛蘭西ノ「ブランチ、フオデレーワ」獨逸ノ「ブルンチュリ」等ノ主張スル所ナリ然レトモ國家ト人民トノ關係ト人民トノ關係ト人民トノ關係ト  
判然之ヲ區別シ得ヘキモノニ非ス何トナレハ人民ト人民トノ間ノ關係ニシテ併セテ國家ニ關係スルモノ極メテ多ク又國家ト人民トノ關係ニシテ併セテ他ノ人民ニ關係スルモノ亦極メテ多ケレハナリ例へハ甲カ乙ヲ殺シタル事項ノ如キハ人民相互間ノ關係ニシテ同時ニ人民ト國家トノ關係ナリ又選舉法ノ如キモ選舉人タル人民カ選舉人タル他ノ人民ニ關係スル事ナリト雖々併セテ人民ト國家トノ關係ヲ定メタルモノナリ又人民ト人民トノ間ノ訴訟手續ニ關スル民事訴訟法ノ如キモ今日ニ於テハ多クハ學者ハ之ヲ公法ノ中ニ算入ス此學說ニモ亦一種ノ折衷說アリテ直接ニ國家ト人民トノ間ノ關係ヲ規定シタルモノハ公法ニシテ直接ニ人民相互間ノ關係ヲ規定シタルモノハ私法ナリキ曰ヘリ然レトモ此區別ノ曖昧ナルハ猶ホ第一說ニ於ケル折衷說ノ曖昧ナル也

場合ニ限ルモノナリ隨テ許可ナキ結婚ヲ爲シタル者ハ君位繼承上ノ權利ヲ有セサルニ止マリ結婚不成立ト看做ササルモ我國ニ於テハ皇女ノ華族ニ嫁スルカ如キ皇位繼承ニ全ク關係ナキ場合ニ於テモ許可ヲ要スルモノトセルカ故ニ天皇ノ勅許ハ必シシモ君位繼承ニ關係アルヲ以テ與フルモノニ非サルコトヲ推定シ得ヘタ體ヲ勅許ヲ經サル皇族ノ結婚ハ民法上モ全ク成立セサルモノト考ヘ得ヘケレハナリ(皇室典範第四〇條、第四一條)

我國ニテハ皇族ハ皇族相互間ニ於テ結婚スヘキヲ原則ト爲スト雖モ皇族ハ特二天皇ノ認許アリタル華族トモ亦結婚スルコトヲ得ヘキナリ然ルニ獨逸及ヒ埃及太利ニ於テハ最モ正統ナル皇族、王族ノ結婚ハ對等者間ニノミ限ルモノニシテ即チ皇族、王族ハ君主タル家ノ女子若クハ君主タリシ家ノ女子或ハ對等者ト認メラルル特定ノ貴族ノ女子ト結婚スルトキニ限り最モ正當ナル結婚ト認メラレ其間ニ生レタル子ニ非サレハ君位ヲ繼承スルノ資格ナキモノトセラレ其以外ノ結婚モ民法上ノ手續ヲ正當ニ履ム以上ハ結婚トシテ成立スルモノニ出生シタル子ハ君位繼承ノ資格ナキナリ故ニ我國ニ於テハ皇位繼承上ヨリ觀

察スルトキハ皇族結婚ノ範圍彼ニ比シテ廣ク而モ皇位ヲ繼承スル者ハ必スシ  
モ嫡出子タルヲ要セサルニ由リ母系ノ範圍ハ甚タ廣キモノト謂フヘキナリ  
第四 皇族ノ選定シタル後見人ニ對シ認可ヲ與ヘ又ハ後見人ヲ自ラ選定シ又  
ハ總テ後見人ニ對シ監督ヲ爲スコト

皇室典範第三十七條ニ依リ天皇ハ其父母ノ選定シタル後見人ヲ認可シ又選定  
シタル後見人ナキトキ又ハ選定シタル後見人承諾セサルトキ自ラ之ヲ選定シ  
得ルモノナリ(後見人ハ總テ成年ノ皇族ニ限ラル)又其後見人ハ父母ニ由リ選定シ  
セラレタルト天皇ニ由リ選定セラレタルトヲ問ハス總テ天皇ハ之ニ對シテ後  
見監督人ノ地位ヲ占ムルモノナリ(皇室典範第三七條、第三八條)

第五 天皇ハ皇族子女ノ教育及ヒ保育ニ付キ監視ヲ爲スコト(皇室典範第三七  
條)

第六 天皇ハ皇族ノ懲戒シ得ルコト(皇室典範第五二條)

懲戒處分ノ制裁ニ付テハ詳細ナル規定ヲ缺クト雖モ皇室典範第五十二條ニ依  
リ皇族ノ特權ノ全部若クハ一部ヲ其事情ニ應シ停止若クハ剝奪スルコトヲ得

ルナリ又懲戒シ得ル場合ハ皇室典範第五十二條ニ於テ皇族其品位ヲ辱カシメ  
タルトキ及ヒ皇室ニ對シ忠實服從ノ義務ヲ缺ク場合計規定セリ

## 第五章 皇位繼承

### 第一節 皇位繼承ノ性質

統治権ノ主體タル天皇ノ地位ハ自然人ヲ以テ充タスモノナリ而シテ自然人ハ  
死亡スルヨトヲ免ルルコト能ハサルニ由リ其皇位ニ在ル所ノ自然人ノ變更ヲ  
避クルコト能ハス其自然人ノ變更ヲ皇位繼承ト稱ス然レトモ之ニ付キ特ニ注  
意スヘキハ皇位ニ在ル所ノ自然人變更スルモ決シテ皇位其モノニ變更ヲ及ホ  
ナルコトニシテ如何ニ屢々其自然人ハ變更スルモ皇位ナルモノハ過去現在及ヒ  
將來ヲ通シテ一位ヲ爲スモノナルコト是ナリ或ハ皇位ハ法人ナリ或ハ君主ハ  
一ノ法人ナリト稱スル者アルハ之カ爲メナリ法人ニ於テハ其法人ヲ組織スル  
者カ如何ニ變更スルモ法人ニ何等ノ影響ヲ及ホササルカ如ク自然人タル君主  
ハ如何ニ更迭スルモ皇位其モノハ變セサルナリ是ニ於テ自然人タル天皇ト統

治権ノ主體タル天皇トハ大ナル區別アルコトヲ知ルヘシ自然人タル天皇ハ屢々  
變更スト雖モ皇位ハ變更スルコトナク又皇位トハ統治権ノ主體タル天皇ノ地  
ヲ指スモノナルニ由リ統治権ノ主體タル天皇モ變更スルコトナキナリ是レ  
「君主ハ死スルコトナシ」トノ法律上ノ諺アル所以ナリ或ハ自然人タル君主ハ死  
亡スルコトヲ避タルコト能ハサルニ由リ若シ君主ヲ以テ統治権ノ主體ト爲ス  
トキハ君主ノ死亡ト共ニ國家ハ消滅スルコト爲ルカ故ニ「君主カ統治権ノ主  
體タリ」トノ説ハ認ムルコト能ハスト唱フル者アリト雖モ是レ統治権ノ主體タ  
ル君主ト自然人タル君主トヲ別タサルノ誤ニ基クモノナリ自然人タル君主ト  
今皇位繼承ノ家督相續ト異ナルノ點ヲ舉クレハ左ノ如クナルヘシ  
第一 家督相續ハ家督ヲ讓渡シ及ヒ讓受クルノ觀念ニ基クト雖モ皇位繼承ハ  
之ト異ナリテ讓渡讓受ノ觀念ニ基クモノニ非サルナリ若シ君主死亡スルトキ  
ハ其瞬間ニ於テ繼承ノ順位ニ當ル者君位ニ即クモノニテ新ニ君主ト爲ル者カ  
前代君主ノ死亡ノ事實ヲ知ルト否トヲ問ハサルナリ蓋シ皇位ナルモノハ讓渡  
讓受ノ目的物ト爲ルモノニ非サレハナリ

第二 家督相續ノ場合ト異ナリテ皇位繼承ニ於テハ次代ノ君主カ皇位ヲ前代  
ノ君主ヨリ讓受タルモノニ非サルヲ以テ皇位繼承ノ時ニ際シ繼承ノ順序ニ當  
ル者カ其繼承ヲ拒ムコトヲ得サルナリ何トナレハ前代ノ君主ノ死亡ト共ニ繼  
承ノ順序ニ當ル者ハ既ニ君主ト爲ルヲ以テ繼承ヲ辭スルノ餘地存セナレハナ  
リ

第三 皇位繼承ハ家督相續ト異ナリテ繼承ノ順序ニ當ル者法ノ當然ノ結果ト  
シテ繼承スルモノナルカ故ニ自己ノ利益ノ爲メニ之ヲ讓受クルノ考ヲ容レサ  
ルナリ隨テ繼承ノ順序ニ當ル者自己ノ知ラサル間ニ若クハ自己ノ同意ナクシ  
テ繼承ノ順序ヲ變更セラルルモ既得権ヲ主張シテ不服ヲ訴フルコトヲ得サル  
ナリ蓋シ君位ヲ繼承スルコトニ對シテハ既得権ナルモノ存在セサレハナリ我  
國ニテハ皇位繼承ノ順序ハ皇室典範ニ依リテ定マルモノニテ皇室典範ヲ改正  
セントスルトキハ皇族會議ニ諮詢スルモノナリト雖モ之ヲ以テ繼承ノ順序ヲ  
變更スルニ皇族ノ同位ヲ要スルモノト考フヘカラサルナリ何トナレハ皇族會  
議ニ諮詢スルモ天皇ハ必スシモ皇族會議ノ意見ヲ採用スルノ義務ナケンハナ

リ先年獨逸ニ於テ君位繼承ノ順序ヲ變更スルニ繼承者ノ同意ヲ要スルモノナルヤ否ヤニ付キ學者間ノ一大問題ト爲リタルコトアリシモ今日一般ノ定説ニテハ固ヨリ之ヲ要セサルモノト爲セリ

## 第二節 皇位繼承發生ノ時期

既ニ述ヘタルカ如ク皇位繼承ノ順序ニ當ル者ハ前代君主ノ死亡ノ瞬間ニ繼承スルモノナリ故ニ繼承ノ時期ハ前代君主ノ死亡ノ時ナリト謂フヘシ多クノ國ニ於テハ新君主即位シタル後即位ノ式ヲ舉クト雖モ此即位ノ式ナルモノハ單ニ儀式タルニ止マリ此式ヲ行フ時ヲ以テ繼承ノ效力生スヘキモノニ非ス我皇室典範第十條ニハ「天皇崩スルトキハ皇嗣即チ践祚シトアルハ此義ナリ」

又同條ニ「祖宗ノ神器ヲ承クトアリト雖モ祖宗ノ神器ヲ承クルハ必シシモ即位ノ效力發生ノ必要條件ニ非ス若シ一大事變ノ生スルコトアリテ祖宗ノ神器ナルモノ一時之ヲ見出スコト能ハス隨テ直チニ之ヲ承クルコト能ハストスルモ君位繼承ノ效力生スルコト疑ナキナリ又歐洲ニテハ君主即位ノ後貴乘兩院ノ

トアラウカト云フコトガ一ノ疑問ト爲フテ居ル、學者ニ依フテソレハ裁判所ニ由フテ認メオバナヌエト云フニトヲ申ス、詰リ裁判側ガナケレバオカヌト云フコトニ歸著スル、併シシレハ私ノ思フニハ餘り狹隘カ說ガアリ必ズシモ裁判所デナクテモ行政上ノ處分ニ由フテ認ニラレラニ差支ナキ、即チ行政官廳ガソレヲ認メタノデアラモ矢張リ主權者ノ代表者ガ認メタコトニ爲ル

是ガ先づ不文法若クハ慣習法ト云フキノデアリマスガ、之ヲ「不文法」ト云フノハ最モ惡イト云フ說ノアル譯ハ慣習法ト云フモノハ必ズシモ書キ物ガナイト云フ譯ニ極フテ居ルノデハナク、第一、學者ガ其慣習法ヲ編纂シテ、サウシテ著書トシテ出スト云フコトハ珍シクナシ、英吉利ノ如ク多ク慣習法ニ依フテ法律問題ノ定ラテ居ル國デハ著書ガ皆慣習法ヲ編纂シテ居ルケレドモ此私著フ法律上ノ效力ヲ持タヌコトハ疑ナシ之ヲ以テ不文法ニ非ズト云フ證據ニハ爲テスケレド矣、是ヨリモト甚シイロトガアル、往往ニシテ主權者若クハ其代表者ガ爲ス之ヲ編纂セシムルコトガアル、西洋各國ニ法典ヲ編纂セラレケイ前ニハ此ノ如キモノが盛ニ編纂セラレタノデアハ百年前アリテハ西洋各國ニ大抵地方地方ニ依フテ法

律ヲ異ニシテ居タル其各地方ガ大抵慣習法ヲ持ツテ居タル所ガ慣習法ト云フモノハ實ハ餘程不分明ナモノデアル故ニ實際疑ヘシオ問題ガ起テ仕方ガナイ、ソニ各國ノ君主又ハ諸侯ガ就ウテ慣習法ヲ編纂セシメタ、殆ド各國ニ皆其慣習法ノ編纂シタノガアル併ナガラソレハ成文法デハナイ、ナゼ成文法デナイカト云フニ是ハ編纂シタ當時ニ於ケル慣習ヲ集メタモノデアルト云フノデスカラ若シ實際ニ於テソレト異ナタ慣習ノアルト云フコトヲ證明サヘスレバ忽チ其效力ハナクナル、唯裁判官其他ノ便利ノ爲スニ君主若クハ諸侯ガ編纂セシメタモハデアル、疑ハシオトキハソレニ據ルト云フコトニ實際ナル、是ハ公ニ編纂シタル所ノ慣習法デアル、ダカラ不文法ノ名ハ此ノ如キ場合ニハ頗ル其當ヲ缺イテ居ルト謂ハナケレバナラヌメデアル。

以上ヲ以テ不文法若クハ慣習法ノ御話ヲ終リマシタ

次ニ成文法ト慣習法トニ關スル二三ノ問題ノ御話ヲ致シマス

第一ノ問題ハ成文法ト不文法トベ孰レノ先ニ適用スベキカト云フ問題デアル、即チ若シ同一ノ事項ニ付テ成文法ト不文法ト存シテ居ルオヌバ其孰レヲ適用

スベキカト云フコトデアル、之ニ關スル詳シイコトハ後ニ法律ト慣習トノ關係ヲ論ズルニ當リテ述べマス積デアリマスケレドモ一言茲ニ辯ジテ置カナケレバナラエト思フ、是ハ國ニ依クテ其主義ヲ異ニスル、慣習法ヲバ主トスル國ニ於テハ成文法ヨリモ先ニ慣習法ヲ適用スルト云フ主義ヲ採用シテ居ル處モアル、併シ我邦ニ於テハ原則トシテハ必ズ成文法ヲ先ニシナケレバナラヌメデアル、ソレハ明治八年第三百三號布告裁判事務心得第三條ニ明カニナシテ居ル、其規定ニ依レバ民事ノ裁判ニ成文ノ法律ナキモノハ習慣ニ依リ習慣ナキモノハ條理ヲ遂行シテ裁判スベシト云フニトガアル、先ツ成文ガアレバ成文ニ依ラナケレバナラス、成文ナキ場合ニ於テ始メテ習慣ニ依ルベキモノデアルト云フコトニ爲ツテ居ル此布告ハ私ノ意見ニ依レバ今日尙ホ其效力ヲ存シテ居ルモノト思フ、民法施行法ニ依テモ廢セラレテ居ラズ、他ニ之ニ抵觸スル法律ガアリマセヌカラ矢張リ是ハ效力ヲ存シテ居ルト思フ、但法律ト慣習トノ關係ニ付テハ法例第二條ノ規定ト重複スルコトニ爲ルカラ此部分ダケハ實際效力ヲ失フテ居ルト謂フテモ差支ナイ加之慣習法ニ關シテハ法例ノ第二條ニモ規定ガアリマスガ、ソレモ矢

ルモノニニ律リ法律ト同一ノ效力ヲ有スト云フコトニ爲テ居ル、即ち法律ノ明文ヲ以テ特ニ慣習法ノ效力ヲ認メテ居ル場合ハ是ハ論ガナカラウト思ク、或場合ニ法律ノ明文デ慣習ガアレバ其慣習ニ依レド書イテアルナラバ、之ニ付テソ疑ノ存スル餘地ガナカラウト思フ、例ヘバ水小作權ニ關シテ一應ノ規定ガアツタトニ第二百七十七條ニ前六條ノ規定ニ異ナツタル慣習アレトキハ其慣習ニ從フ」トアル、此類ノ規定ハ到ル處ニアル斯様ニ明文ノナル場合ニハ成文ニ依テ慣習ノ效力ガ一般ノ規定ヨリモ先ニ行ハルルト云フコトガ明カダアルカラ是ハ問題ニハナラヌ、見様ニ俟フテハ矢張リ成文法アルト言ヘル、慣習ガ先ニ行ハルルト云フ成文法アル、故ニ問題ハ此ノ如キ明文ノテ不場合ニ關シテ起ル、然ルニ法例ノ第二條ニハ法令ニ規定ナシ事項ニ付テハ慣習ガ法律ト均シ而效力ヲ持フト斯ウ云フコトガ書イテアル、即チ裏面カラ言フト成文ノアルモノハ先づ之ニ依ラナケレバナラニスト云フロトガ明カナル、商法第一條ニ於テ矢張リ此主

ハ商慣習法ヲ適用シトアル、之ニ由フテ原則ヲ明カニシテアル、本法即チ商法ニ規定ノナイモノニ付テ商慣習法ヲ適用スル、慣習法ヨリハ商法ト云フ即チ成文ノ規定ノ方ガ先ニ行ハルルト云フモトガ明カニシテアル併シ「商慣習法ナキトキハ民法ヲ適用スト」云フコトガアル、民法モ亦一ノ成文法デアルカラ之上慣習法ト相對照シテ見ルト慣習法ノ方ガ先ニ行ハルルゾレハ今ノ原則ニ對スルノ例外ト云ハレルノデアル併シ後ニ論ズベキ特別法ハ一般法ニ先フテ適用セラルルト云フ原則カラ見レバ此商法ノ規定ハ必ズシモ例外的規定デハナイト言ハレルノデアル、慣習法ト雖モ商慣習法ハ特別法デアル、民法ハ成文法デアルケレドモ併シ一般法デアル、ソレデ商慣習法ノ方ガ民法ヨリハ先ニ行ハルルト云フコトガ出來ルノデスカラ例外ニシテ例外ニ非ズト言ヘルノデアル、尙ホ詳シイコトハ後ニ論ジマスカラ此處デハ先ヅソレ丈々ノコトヲ申上グテ置キマ

第二ノ問題ハ慣習法ノ證據デアル、即チ慣習法モ亦一ノ法律デアルガ、通常法律ノ規定ハ當事者ガ特ニ證據ヲ出サヌモ宜シイナデアル、法律ハ裁判所ニ於テ知テ居ル筈デアルカラ法律ノ或明文ヲ援用テサウシテ或權利ヲ主張スル場合ニハ別ニ之ガ證據ヲ出ス必要ハナシ、然ルニ慣習法ハ如何デアル、矢張リ成文法同様ニ之ヲ援用スル者ニ於テ證據ヲ出ス必要ナキヤ否ナト云フガ問題デアル、是ハ國ニ依テ一樣デナイ我邦ニ於テハ第一ニ地方慣習法及ビ商慣習法、是ハ當事者カラ證據ヲ出サナケレバナラス、原告デ之ヲ援用スルナラバ原告ガ此ノ如キ慣習法ガアルト云フコトヲ證據立テナケレバナラス、被告ガ之ヲ援用スルナラバ被告ノ方デ其證據ヲ出サナカニス、第二ニ若シ一般ノ慣習法デアルナラバ、即チ一地方限リズモナク又商業ニ特別ナル慣習ガセナインラバソレニ付テハ特ニ證據ヲ舉ゲルコトハイランait、斯ダ云フコトニ爲テ居ル、而シテ我邦ノ實際ノ有様ヲ言ヘバ全國ニ通ズル慣習法ト云フモノハ極メ希少殆ド無稀有ト言フテ宜イノデスカラ、我邦ニ於テハ慣習法ノ證據ヲ提出スルコトガ必要デアルト云フ主義ヲ採用シテ居ルノデアルト言フテモ宜シ、是ハ民事訴訟法ノ

第二百十九條ニアルト地方慣習法、商慣習及ヒ規約又ハ外國ノ現行法ハ之ヲ證ズ可シ云云、原則ハソレデヨイノデアル、獨逸ノ民事訴訟法ハ是ト聊カ異ナリタル主義ヲ取フテ居ル、現行ノ獨逸民事訴訟法第二百九十三條ノ規定ニ依レバ慣習法ハ裁判所ニ知レザルモノニ限リテ舉證ヲ必要トスルト、斯ダ云フコトニ爲テ居ル、即チ裏面カラ言ヘバ裁判所ニ知テ居ル慣習法ハ當事者ヨリシテ其證據ヲ提出スルニハ及バスト云フコトニ爲テ居ル、ソレデスカラ我民事訴訟法ト較ベテ見ルト縱令地方ノ慣習デアラウトモ又ハ商慣習デアラウトモ裁判所ノ方デ知テ居ルカラバ證據ヲ舉ゲナクテ宜シ、裁判所ガ知ラナイト云フトキニハ特ニ證據ヲ舉ケサバナラストスダ云フコトニ爲テ居ル、一旦慣習法ノ效力ヲ認スル以上ハ或ハ此獨逸ノ民事訴訟法ノ主義ノ方ガ穩當デアラウカト思フノデアリマス、併シ例ヘバ佛蘭西ナドヘ必ズ慣習ト云フモノハ當事者ヨリ其證據ヲ出サセバナラヌト云フニトニ爲テ居ル、尙ホ此問題ニ付テハ或ハ民事訴訟法ヲ誤解シテ、同法ノ第二百十八條ニ裁判所ニ於テ顯著ナル事實ハ之ヲ證スルコトヲ要セストアルテテ裁判所ニ知テ居ル慣習ハ證據ヲ舉ゲナクテモ宜シイノ

アスナリカト云フ疑ア起ス者ガアリヤスケレドモ、ソレハ誤解デアル。此規定ト同一ノ規定ハ獨逸ニモアル併シ「顯著ナル」ト云フコトハ單ニ裁判所ガ知リテ居ルコトヲ謂フノデス。單ニ裁判所ガ知リテ居ルト云ヘバ特別ノ事情ニ因ラ。偶ニ裁判所ガ知リテ居ルノデモ宜イ故ニソレハ適用ノ範囲ガ遠フ、ソレダカラ獨逸ニ於テモ今ノ情條ト同一ノ規定ガ存シテ居ル、然ルニモ拘ハラズ慣習法ニ付ケ裁判所ニ知レザルモノニ限ブテ證據ヲ舉ゲルコトヲ必要トスルト云フ特別ノ明文ガアル。是合體式、對照式を取リテ又ハ前節皆々本文ノ本義説述例也。是ガ第二ノ問題即チ慣習法ノ證據ニ關スルモノデアル。總ニ第三ノ問題ハ即チ成文法ト慣習法トノ得失如何ト云フ問題デアル。即チ成ルベタ成文法ヲ設ケル方ガ宜イカ、ソレモ成ルベタ慣習法ニ任シテ置カタ方ガ宜イカト云フ問題デアル。又モ既に既存ノ慣習法ニ關スルノ事例、或は既存ノ慣習法ニ關スルノ事例之ニ付テハ古來議論ガアリ。隨分學者ニ依リハ慣習法ノ方ガ宜シト云フ。コトア申ス、既ニ十數年前ニ英法學者ノ或ハ多數ト言フテモ宜カフタカト思ヒマスガ、

ソレガ成ルベタ慣習法ニ依ル方ガ宜シオト云フコトヲ申シタ、今日デモ英法學者ノ中ニハ矢張リ其意見ヲ持リ居ル者ガアルヤウデス。外國ニモ矢張リ此說ハアル。英國ニ於テハ矢張リ慣習法ガ主デアリテ成文法ハ寧ロ從タルモノニ過ギ、單行ノ成文ニアリマスケレドモソレハ一時ノ特別ナル問題ニ關スル成文デア、テ一般ニハ成文ノオイチ慣習法ニ依ルモノガ多イ。佛國ニ於テハ百年以來法典モ完備シ、其他何事モ成文ヲ以テ規定スルノツ本則ト致シマシテ慣習法ハ別段ノ明文ガナケレバ採用シナイト云フ主義ヲ取リテ居ル、獨逸ニ於テハドウデアルカト云フニ、是ハ千九百年マダム成文ノ存スルモノト存セザルモノトアリ。初ハ成文ノ存セザルモノガ多カタソデアリマスケレドモ段段成文ガ出来テ、各聯邦ニ於テハ殆ド總テ成文ヲ以テ規定シテ居ルモノモ少カラズアリマシタガ、帝國一般ノ法律トシテハ千九百年マダハ民法ト云フモノハ原則トシテ慣習法ニ從テ居リト謂フテモ宜イ。併シソレモ今日デハ最早民法ト云フ法典ガ出來テ今ハ獨逸ハ矢張リ成文法國ト謂ハナケレバオラヌメデアル、併シ以前ニハ隨分議論ノアッタモノデ彼ノ名高キ「ザ・ヴェーニー」ト「アボート」ノ爭ガアフタ「ナビニー」ハ成ル

ベタ慣習法ニ依ラナケレバナラスト云ヒテボ一ハ成ルベク成文法ニ依ラナタレバナラス隨テ速ニ法典ヲ編纂シナケレバナラスト云フ主義ヲ唱ヘタ其後今日ニ至ルマデ矢張リ學者ハ兩派ニ岐レテ居ル成文法派ト慣習法派ト岐レテ居ル事實ニ於テハ成文法派ガ勝利ヲ得マシタケレドモ是ハ多少政治的ノ意味モアル獨逸帝國ト云フモノガ出來テ帝國ノ統一ヲ圖ル爲ミニ帝國一般ノ成文法ヲ制定スル必要ガアタカラ特ニ成文法派ガ容易ク勝ヲ占メタノデアルカモ知レヌ兎ニ角學者ノ間ニハ說ガ兩派ニ岐レテ居ル其位是ハヤカマシイ問題デアル  
私ハ就レヲ可トスルカト云フニ矢張リ成文法ヲ主トスルノガ宜シイト思フ決シフ慣習法ヲ度外ニ措クト云フノデムナイ如何ニ成文法ヲ制定スルト云ウチモ立法者ノ氣ノ附カナオコトガ必ズアルソレハ矢張リ慣習法ニ依ルト云フノガ適當デアルト思ヒマスクレドモ併シ或ルヘク其慣習法ニ依ラズシテ成文法デ支配シテ行クヤウニ努メルノガ宜シオト私ハ思フノダアル其理由ハ第一ニ慣習法ト云フモノハ殆ド性法ト同ジヤウニ確タル標準ガナイ甲ガ慣習ナリト

稱スルモノガ乙ノ眼カラ見ルト慣習デナイト云フコトガ多イ我邦ノ裁判例ハ或ハ別段ニ不確定デアルト言フテモ宜イカモ知レスケレドモ同一ノ問題ニ付テ或裁判所ハ右ガ則チ慣習デアルト云ヒ乙ノ裁判所ハ左ガ慣習デアルト云フガ如キコトハ珍シクナイ位デアル外國ニ於テモ多少此ノ如キ趣ガアルデアラウト思フ現ニ英國ノ如ク古來慣習法ヲ主トスル國柄デアツテ裁判官モ世界ニ稀ナル良イ裁判官ガアリ辯護士モ世界ニ冠タル辯護士ガ據ウテ居ル國柄デアツテ矢張リ甲ノ裁判所デ慣習ナリト裁判シタモノヲ乙ノ裁判所デハ慣習デナイト云フア居ルコトガアル成程成文法ト雖モ其解釋ニ付テ疑ナキコトハ出來ナイ矢張リ其解釋ニ付テ說ガ岐レル今日ハ各種ノ法典ガ出來テ日尙ホ淺イノデ裁判例ノ一定シナイノハ固ヨリ其所デアルケレドモ民法商法等ノ解釋ニ付テ裁判例ガ區區ニ亘ラテ居ルコトハ諸君モ或ハ御承知デアラウカド思フ併シ是ハ兎ニ角標準トスベキ成文ガアルチヤント文章ニ書イタモノガアル故ニ其議論ノ範圍ト云フモノハ法文ノ意味如何ト云フニ過ギナイソレダカラ慣習ノ如クニマルデ水炭相容レヌガ如ク見解ノ異ナルコトハ稀デアラウト思フ況キ成文ノ解

釋ハ數年乃至十數年ヲ經レバ自ラ一定スル我邦ノ例ヲ見マシテモ刑法ノ如ク假ニ二十年モ行ハビテ居ルモノニ爲ツテ來ルト、其解釋ガ大抵裁判例デ極カテ居ル、中ニハ學者ガ同意シ兼メル裁判例モアルケレドモ免ニ角裁判例ハ大抵一定シテ居ル滅多ニ解釋ノ肢レルコトハナイ外國デモ其通リデ成文ガ施行セラレテヨリ十數年ヲ經レバ大抵其解釋ト云フモノハ一定シテ仕舞フ、佛蘭西デモ獨逸デモ皆サウデアル、枝葉ノ點ニ付テ多少裁判例ノ異ナルコトハ免レナシ、又稀ニハ裁判例ノ變ルト云フコトモアリマスガ併シ十數年掛ク一定シタル所ノ裁判例ハ容易ニ變ルモノデハナイ代リニ其裁判例ハ惡タチモナカカカ之ヲ改ムルコトハ難イ、故ニ成文ト云フモノガアレバ據ルベキ標準ガアチ疑ガ少シ、之ニ反シテ慣習ナラバ假ニ古ニ慣習ハ右ノ方デアラモ近頃ノ慣習ガ左デアルト云ヘバ又變ラテ行ク、併シソレガ確デアルト宜オガ、或者い今日モ右デアルト云ヘバ又議論ニ爲ル、成文ニ較ベテ見レバ據リ所ガ餘程薄弱デアル、是ガ成文ヲ必要トスル一つノ理由也。

第二ニハ慣習ノ中ニハ何人ガ見テモ弊害アリト認ムベキモノガアル、例ハ日本民

法施行前ニ於ケル我邦ノ離婚ニ關スル慣習、民法施行前ニ在ヲテ離婚ガ誠ニ容易ク出來ル、成程法律問題ト爲レバ、一方ノ意思ヌミデ離婚ヲ爲スコトハ出來ヌ、併カガラ如何ナル原因ガアッタラバ一方ノ意思ノミデ離婚ヲ爲スコトガ出來ルカト云フニ、其原因ハ裁判所テ認ヌルノデアラカ、裁判所ガ尤ナ理由ガアルト思ヘバ何時モ離婚ヲ許シテ居ル、此ノ如クデアルカラ實際ハ大抵一方ノ意思デ以テ離婚ガ行ハレル、妻ノ意思ニ依フテ離婚ノ行ハルルコトハ少イガ、夫ノミノ意思ニ依フテ離婚ガ行ハルルコトガ最モ多イ、即チ所謂三下リ半ノ離婚ト云フモノガ最モ廣ク行ハレテ居タ、去レバコソ統計ニ據フテ見ルト云フト外國人ハ實ニ驚思フ、我我ノ聞イタ所デハ曾テナイ、故ニ此統計ヲ見ルト云フト外國人ハ實ニ驚入ヲ仕舞フ、斯様ナ國モ世ノ中ニアルモノカト……ソレハ全クノ事實デアル、即チ是ハ確ニ弊習デアルト云フコトハ殆ド何人モ認メテ居ル、今ノ四分ノト云

フノハ戸籍簿ニ登録シタ丈ケ、其上ニ事實上ノ婚姻ハ法律ガ認メテ居ラテ、少クモ  
刑事ニ於テハ事實上ノ婚姻ヲ婚姻トシテ或ヘ姦通或ハ重婚其他總テ事實上ノ  
婚姻ニ法律上ノ婚姻ノ效力ヲ持タシテ居ラタ民事ニ於テスラモ矢張リソレヲ認  
メテ居ラタ、今日ニ於テモ其裁判例ガ矢張リ行ハレテ居ルヤウニ見エル、其位デア  
ルカラ其戸籍ニ登録シナイ婚姻ト云フモノガ許多アル、之ヲ離婚スル場合ト云  
フモノハ最モ多イ、戸籍ニ登録シナイカラト云フテモ届出ヅルニ  
モ及バナイ、隨テ此ノ如キ場合ニ於テハ全ク一方ノ意思デ離婚ガ出來ル、ソレヲ  
般ヘタナラバ果シテ婚姻ノ數ノ三分ノ一カ或ハモット多イカ分ラヌ位ノモノデ  
アル、此弊習ハ改メテケレバナラヌト云フコトハ民法施行前ニ於テ識者ノ殆ド  
一致シテ居ラ所ノヤウデアル、併シ若シ民法ト云フヤウナ成文ガ出來テ明カニ  
之ヲ禁ジナイ限ハ容易ニ此弊習ヲ改ムルコトハ出來ナカツラウト思フ、慣習ノ  
自然ニ改マルノヲ待フタバ何十年掛ツタコトカ分ラヌ、併シ是ガ弊習デアルト  
定ラタ以上ハ速ニ改メタ方ガ宜シ、故ニ民法ノ成文ヲ以テ之ヲ改メタノデアル、  
即チ雙方ノ協議ニ依フテ離婚ヲ爲スハ格別、然ラズンバ一定ノ條件ガナケレバ離

婚ヲ爲スコトハ出來ナイト、斯ウ云フコトニ爲フタ、斯様ナル場合ニ於テハ成文法  
ニ依ラナケレバ殆ド仕方ガナイ、是ガ成文法ノーツノ必要デアル

ソレカラ第三ノ必要ハ殆ド第二ノ必要ト同ジヤウナ理由デスガ、必ズシモ從來  
カラ存シテ居ル慣習ト云フ譯デカクテモ、一時必要アツテ生ジタル所ノ慣習、ソレ  
ガ必要ハ疾クニ去フモ尙ホ實際ニ存シテ居ルト云フコトガ普通デアル、成文法  
デ定メタコトデモ今日ノ時勢ニ必要ナルコトデ、苟ハ何人モ是ハ必要デアルト  
思フテモ十數年若クハ數十年ヲ經レバ最早其必要ハナイ、若クハ有害デアルト認  
メルコトガアル、ソレデモ若シ慣習ニ一任シテ置イタナラバ容易ニ改マル氣遣  
ハナイ、ツツノ例ヲ申上ゲルト封建時代ニ於ケル戸主權ト云フモノハ實ニ强大  
ナルモノデアフタ、ソレハ封建時代ニハ正ニ其必要ガアフタノデアラウト思フ、ダ  
カラ是ハ必ズシモ慣習トハ言ヘナイ、所ガ今日ハ時勢ガ改フテ封建ハ郡縣ニ變り、  
且歛國主義カラ變ジテ開國主義ニ爲フテ總テ社會ノ狀態ガ新ニ爲フテ參フタ、ソレガ  
爲メ戸主權ガ從來ノ如ク强大デア、テハ寧ロ社會ノ進歩ニ害ガアル、其事ハ殆ド  
争フベカラナルコトデアルト私ハ信ズル、併シ慣習トシテハ必要ガ去レバ直グ

ニ改フテ行クト云フ譯ニハイカヌノア、既ニ民法施行前マデハ戸主ノ意思ニ因フ  
テ婚姻デモ養子縁組デモ皆行ハレタノデアル、即チ戸主ガ不同意デアフタナラバ  
未來永劫婚姻モ出來スケレバ養子縁組モ出來ス、甚シキム戸主ヲヘ承知シタラ  
バ其代リニ本人ノ知ラナイ間ニモ婚姻ガ成立シ養子縁組ガ成立スル、ソレハ民  
法施行前ノ有様デアフタ所ガ此慣習ハ若シ成文ガナカツタラバ何時改フタカ分ラ  
ス、自ラ慣習ノ改マルノヲ待フタラバ今日ハ勿論ノコト尙ホ五年ノ後ニ改マルカ、  
十年ノ後ニ改マルカ私ヘナカナカ五年ヤ十年ノ後ニハ改マラナカツタデアラウ  
ト思フ、ケレドモ最早其必要ノナイト云フコトハ殆ド輿論ガ認メテ居テ是モ民  
法ノ規定ニ依フテ改タタ、即チ戸主權ハ矢張リマダ認メバスルケレドモ此ノ如キ  
強大ナルモノデハナイト云フコトニシタ、今後トモ民法ニ規定シテアル事柄  
ガ時勢ニ合ハナカナタラバ之ヲ改ムルコトハ存外容易イデアラウト思フ、却テ  
慣習ニ任シテ置イタラシ易ニ改マラヌズアラウト想フ、ソレデアルカラ寧ロ  
尚、第四ニ我邦ニ特別ナルヨト言ヘば是非成文法ヲ主トシナケレバナラヌ

譯ハ我邦ノ慣習法ハ維新前ノモノハ今日ハ時勢ガ遠フカラ多ク用ヒラレナイ  
維新後ノ慣習ト云フモノハマダ日ガ淺イカラシニ慣習ト爲フ居ラナイモノガ  
多イ、此場合ニ於テ成文法ヲ作ラスケレバ實際世人ガ標準トスベキ法律ガ殆ド  
分ラナイ、既ニ民法施行前ニ民法上ノ問題ニ付テハ裁判例ハ一致セズ殆ド據ル  
ベキ法律ガ分ラナカツノデアルゾレ故ニ速ニ成文法ヲ設ケテ各人ヲシテ依ル  
所ヲ知ラシムルト云ス必要ガアタノデアルモシテアラウト思フ、即チ其言フ所ヲ聞ケバ成文  
斯様ナル譯デ私ハ特ニ我邦ニ於テハ成文法ガ必要デアル、成ルベク成文法ニ據  
ルト云フ主義ヲ取フ方ガ宜シト思ス慣習法主義ノ人ノ言フ所ハ一應尤ニ聞  
エルケレドモ、ソレハ却テ私ハ實際ニ合ハヌト思フ、即チ其言フ所ヲ聞ケバ成文  
法ハ或人間ガ自己ノ考ニ依フテ極メタ所ノ規則デアルカラ果シテソレガ時勢ノ  
必要ニ應ジテ居ルヤ否ヤト云フコトハ分ラヌ、動モスレバ應ジナイコトガアル、  
又一旦定メタコトハ縱合時勢ガ其必要ヲ認メナイ、寧ロ反對ノ必要ヲ認ムルト  
云フ場合ニ爲フモ矢張リ法律トシテ存スルト云フ患ガアル、慣習ハ之ニ反シテ  
時勢ノ必要ニ應ジテ起ルモノデアルカナ是ガ時勢ト相背馳スルト云フコトハ

ナシ、若シ背馳スルニ至レバ必ず新シイ慣習ガ出来テ之ヲ改ムルカラ宣シイト  
云フ、是ハ慣習法論者ノ常ニ言フ所デアリマスケレドモ、ソレハ理論デ、實際ハナ  
ウ云フモノデナイト云フコトヲ信ジテ居ル、今申上ダタ通リ慣習ノ起ルノハ無  
論時勢ノ必要ニ迫ラレテ起ルニ相違ナイ、併シ一遍其慣習ガ出來ルト必要ガ去フ  
テモ尙ホ容易ニ之ヲ改ムルコトハ出來ヌ、又慣習ノ中ニハ往往ニシテ人類ノ弱  
點カラ生ズル慣習モアルノデ、サウ云フノハ寧ロ改ムル方ガ宜シト云フコト  
モアル、今申上ダタ通リデ、却テ成文法ノ方ガ實際上時勢ノ必要ニ應ズルコトガ  
容易イノデアルト私ハ思フ  
以上ヲ以テ成文法、慣習法ノ概略ノ御説ヲ致シマシタガ、終ニ成文法ノ細別ヲシ  
ケウト思フ  
成文法ヲ分チマシテ法典ト單行法トニ致シマス法典トハ如何ナルモノカ「單行  
法トハ如何ナルモノカト云フニ、是ハ頗ル漠然タルモノデアリテ正確ナル定義ヲ  
下スコトハ出來ヌ強ヒテ定義ヲ下セば「法典トハ或多くノ事柄ヲ網羅シテ一ツ  
ノ成文ト爲スモノデアル例ヘバ民法ト云ヘバ其中ニヘ物權ノコトモアレバ債  
權ノコトモアル、親族ノコトモアル、相續ノコトモアル、即チ多クノ事柄ヲ網羅シ  
テ、サウシテ之ヲ「民法ト云フ成文ニ規定シタルノデアル、之ニ反シテ限定セ  
ラレタル範圍ノ事項ノミヲ規定シタル法律ヲ「單行法」ト謂フ、例ヘバ不動產登記  
法ト云ヘバノ單行法デアルガ、是ハ不動產上ノ權利ヲ登記簿ニ登錄スルコト  
ニ付テノミノ法律デアル、此ノ如ク限定セラレタル範圍ノ法律デアル、併シ是ハ  
誠ニ漠然タルコトデ、ドノ位事項ガ集マリテ居タルバ多クノ事項ヲ集メタト云  
ヘルカ、ドノ位集メタラバ限定シタル範圍ト云ヘルカ、何等ノ標準モナイゾレデ  
スカラ我邦ノ現行ノ法律ニ付テ言フテ見テモ民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴  
訟法、此五フノモノハ確ニ法典デアル、尙ホ陸軍刑法、海軍刑法、陸軍治罪法、海軍治  
罪法ハ何レモ法典デアルヤウデアル併シ其外ノモノニナルト分ラナイヤ例ヘバ  
憲法ハ法典ナルヤ否ヤ分ラナイ、條約カラ言ヘバ僅ニ七十六條、ソレヨリ條數ノ  
多イモノハ甚ダ多クアル、而シテ通常法典ト云ハナイ、ダカラ憲法ハ果シテ法典  
ナルヤ否ヤト云フノハーノ議論デアル、私ハ「法典ト云フ方ガ宜カラウト思フ何  
トナレハ條數ハ僅ニ七十六條デアルケレドモ中ニ規定セル事柄ハ甚ダ多イノ

デアル、天皇ノ統治權ヲ首ト致シ、帝國議會ノ事、其外法律ノコト、租稅ノコト、豫算ノコト、司法權ノコト、剩ヘ臣民ノ權利義務マデ規定シテアル、範圍ガ極メテ廣イノデアルカラ先づ「法典」ト稱シタ方ガ穩當デアラウカト思フ、併シソシナラバ裁判所構成法ハドウデアルカ是モ單ニ裁判所ニ關スル法律ト云フタラバ狹イヤウデアルガ裁判所ニハ區裁判所、地方裁判所、控訴院、大審院ノ別アリ、又其執ル所ノ職務ニ付テモ民事、刑事ノ訴訟事件並ニ非訟事件ガアル又職員カラ言フテ見テモ判事檢事ノ外裁判所書記モアレバ廷丁モアレバ執達吏モアレバ種種ノモノガ中ニ規定シテアル、故ニ隨分是ハ廣イ事項ヲ網羅シタモノデアルカラ法典デハナイカトスウ云フ疑が起ル併シ是ハ法典ト見ル人ト法典ト見ナイ人ト執レガ多イカ隨分問題ダラウト思フ、私モ執レニスルノガ穩當カト云フニ、隨分疑ハシイ問題デアラウト思フ、「法典」ト稱シテ無論差支ナイト思フ、併シ之ヲ「法典」ト稱スルコトニナルト、然ラバ市制町村制ハ如何、府縣制、郡制ハ如何ト、斯ウ云フヤウニ段段疑ガ廣ク爲フテ來ルノデアル要スルニ法典單行法ノ區別ト云フモノハ尠クモ學理的ノモノデナク、極メテ漠然タルモノデアル、併シ慣習上此區別ハ確ニア

ル、現ニ十年程前ニハ法典論者、非法典論者ナドト云フモノガアツタ「法典」ト云フモノガナケレバ法典ガ善イトカ、法典ガ悪イトカ云フユトハ有リ得ヌノデスカラ漠然トシテハ居ルケレドモ、矢張リ法典ト云フコトニ認メナケレバナラヌ、此法典トハ如何ナルモノフ云フカト云フコトニ付テハ法律辭書ニ「法典」ト云フ字ガアブソレニ簡單ニ說明ガ出テ居リマスカラ序ニ御覽ニ爲フタラ宜カラウト思フ」單行法ハ或ハ特別法ト申シマス、併シ單行法ト特別法トハ少シ意味ガ違フ「單行法」ト云フノハ主トシテ法典ノ中ニ入レルコトノ出來ルモノフ一部分ノ獨立人法律トシテ出スモノデアル、只今不動産登記法ノ御話ヲ致シマシタガ、是ハ「單行法」ト云フテ言ヘヌコトハナイ、併シアレハ「特別法」トセ言ヘル、ナゼ「單行法」ト云ヘルカト云フト登記ノ事ハ舊民法ニ於テモ一般ノ原則ハ民法ニ規定シテアル、獨逸ノ民法ニ於テモ一般ノ原則ハ矢張リ民法中ニアル、ソレヲ我民法ニ於テハ民法中ニ規定セズシテ全ク別段ノ法律ニ譲フタ、ソレダカラ是ハ「單行法」ト言ヘル、併シ或ハ又之ヲ「特別法」ト云フテモ宜イ、「特別法」ト云ヘバ或限定セラレタル事項ニ特別ナル法律デアル即チ不動産登記法ハ不動産ノ登記ト云フコトニ特別ナル事

項ヲ規定シタモノダカラ特別法ト言ヘル併シ兩者ノ範圍ノ全ク同ジカラザルコトハ一二ノ例ニ依テ分ル例ヘバ商法ハ特別法デアルト言ヘル即チ民法ニ對シテ言フト是ハ特別法併シ誰モ「單行法ト」ハ言ハナイ、商法ハ誰デモ法典ト云フ、ナゼ法典カト言ヘバ其中ニハ商業登記ノコトモアル、商業帳簿ノコトモアル、商業使用人ノコトモアル、代理商ノコトモアル、會社ノコトモ、組合ノコトモ、賣買ノコトモ、寄託ノコトモ、運送ノコトモアレバ又保險ノコトモアル、手形ノコトモアル、海商ノコトモアルト云フ、風ニ非常ニ多クノ事項ヲ網羅シテ之ヲ集輯シテ居ルカラ是ハ何人ト雖モ法典デアルト言フ、併シ特別法デアル、ダカラ此場合ニハ單行法デハナイガ特別法デアルト謂ハチバナラヌ之ニ反シテ例ヘバ民法ノ第七百九條ニ不法行為ニ因ル損害人賠償ニ關スル規定ガアル、「不法行為ト云フノハ他人ノ權利ヲ侵害シ、是ニ因フテ損害ヲ加ヘタル場合ニ加害者ガ其賠償ノ責ニ任ジナケレバナラヌト云フ」コトデアル、ソレガ第七百九條ニ規定シテアル然ルニ一ツノ法律ガ出来テ、其法律ニ依ルト云フト此不行爲ノ責任ト云フモノハ失火ノ場合ニハ適用シナイト云フコトデアル、尤モ

重大ナル過失ガアツトキヘ此限ニ在ラズトアル、サウ云フ規定ガ出來テ、ソレハ一つノ法律トシテ行ハレテ居ル、明治三十二年ノ法律第四十號ニ規定シテアル、所ガ此規定ハ「特別法ト云フ」テ言ヘナイコトハアリマセヌガ、普通謂フ「特別法」デハナイ、是ハ「單行法ト」ハ言ヘル、其事柄ヲ法典ノ中ニ規定セズシテ單獨ノ法律ヲ以テ之ヲ規定シタ云フ方カズ「單行法ト」言ヘル「特別法ト云フ」テ言ヘナイコトハナイガ普通ハ言ハナイ、此類ノ事ハ他ニ許多アルノデ、要スルニ單行法ト特別法トハ少シク意味ガ遠フ、併ナガラ時トシテハ同じ意味ニ使フ、サツキノ不動産登記法ノ例ノ如クデアル、併シ其範圍ハ何レモ不明デアル

法典主義ト非法典主義即チ單行法主義トハ成文法主義ニ慣習法主義ト同ジヤウニ學者ノ說ヲ分ケラ居ル例ヘバ獨逸ニ於テ慣習法ヲ主トスル方ノ學者ハ同時ニ單行法主義デアルドウ云フコトカト云フト此等ノ學者ハ成ルベク慣習法ニ依ルガ宜シト云フ意見デスカラ、一朝ニシテ法典ノ如キ概括的ノモノヲ拘ヘテ慣習法ノ全部ヲ殆ド釘附ケトシテ成文トスルト云フコトハ甚ダ宜シクナイ若シ成文ノ必要アルナラバ先づ其量モ必要ナル部分丈ケラ成文トシタラ

項デモ「民法」ト云フヤウナ範國ノ廣イ法典ヲ作ラズシテ或ハ賣買ニ關スル單行法ヲ作ルト  
云フ風ニシタ方ガ宜シト、斯ウ云フ意見現ニ此學派ニ屬スル學者デ名高イ人  
ノ一人、即チ獨逸法律史ノ大家タル「ブルンバード」ナドト云フ人ハ頻ニサウ云フ說  
ヲ唱ヘテ日本デモサウ云フ風ニヤフテ貴ヒタインアドト云フ希望ヲ述べタコトガ  
アル、我邦ニ於テモ十年前マデハ此法典主義、非法典主義ト云フモノガアツ、其非  
法典主義ノ中ニハ絶對ニ成文ヲ不可トスル者モアリマシタケレドモ、併シ單行  
法ヲ作ルコトニハ多クハ反對デナカツタ、時ノ政府ハ法典主義ヲ取ッテ頻ト法典  
ヲ作ツキ、民法、商法、民事訴訟法ナドヲ作ツテ出シタ、ソレニ對シテハ民間ニ非常ナ  
反對ガアツテ遂ニ法典ノ延期ト云フ說ガ出テ、其延期說ガ多數ヲ占メテ帝國議會  
ニ於テ兩院トモ之三同意シテ遂ニ御裁可ニ爲フタノデアル、ソレガ爲メ明治三十  
三年ニ發布ニ爲フタ民法商法ニ皆其施行ヲ延期セラレテ、且法典調査會ニ於テ之  
ヲ改正シテ、サウシテ又新シキ法典ガ出来タ併ナガラ當時ノ法典ノ延期ノ主唱

リヤスケレモ其賛成者ノ中ニハ眞ノ延期論者即チ當時ノ法典ハ其當ヲ得ザル所多キニ由リ之ヲ改メテ他ノ是ヨリモ良キ法典ヲ作ラソレヲ施行スル方ガ宜シシト云フ意見ノ人ガ多カタ遂ニ其意見ガ行ハレ初ノ法典ハ施行セラレナカツタケレドモ亦之ニ代ル法典ガ施行セラルコトニナリマシタカラ彼ノ非法典論者ハ竟ニ敗北ニ了フタト謂ハナケレバナラヌ此議論ニテは、他ノ各國ニモ此議論ニ矢張リ獨逸ニ於テハ「ナグニ」ト「チボ」ノ議論デアラ、他ノ各國ニモ多少之ニ關スル議論ハアル、故ニ我邦ニ於テ此論ノアタノム決シテ無理デハアリマセヌガ併シ私ノ思フニ矢張リ法典ヲ作タ方ガ宜シイ、ソンカラ今ノ通りニ法典ヲ作タ方ガ宜イカ、ドウカト云フコトニナルト疑問デアル、即チ今ハドウカト云フト、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事事訴訟法デアル、ナウシテ破産法ト云フハ法典カドウカト云フ問題ガ起リマスベ、兎ニ角獨立ニ法律ト爲ルダラウト思モノハ前ニハ商法ノ一部ヲ成シテ居ツタガ、今ハソレガ舊商法ノ一部トシテ尙ホ存シテ居ル併シ近キ將來ニ於テ是ハ獨立ノ法律ト爲フテ出ルダラウト思フ、ソレニハ前ニハ商法ノ一部ヲ成シテ居ツタガ、今ハソレガ舊商法ノ一部トシテ尙ホ存シテ居ル併シ近キ將來ニ於テ是ハ獨立ノ法律ト爲フテ出ルダラウト思フ

ア之ヲ商法ノ一部トシタト云フコトハ其當ヲ得ナカツタト私ハ思フ、尙ホ後ニ論ジマスケレドモ民法ト商法トヲ各獨立ノ法典トシタト云フコトモ私ガ同意シ兼ヌルコトデアル、併シ鬼ニ角法典ヲ作ルト云フコトハ必要デアルト私ハ思フ、即チ國法ノ主義ヲ一貫スル爲ミニハ成ルベク相牽連シタル問題ハ一つノ法典ト爲シテ併セテ之ヲ規定スル方ガ宜シイ、其方ガ主義ガ貫徹致シマスカラ法律ヲ適用スル上ニ於テ概シテ結果ガ公平ニ爲リ、之ヲ施行スル者ガ餘程便利ヲ感ズルコト疑ナイト思フ、成程反對ノ非法典論者ノ方ニモ稍ヤ理由ノアリサウナコトヲ言フ、ソレハ何デアルカト云フト、大ナル法典ヲ一時ニ制定スルト云フコトニナルトナカナカ事業ガ大キイ、隨フテ一過法典ヲ編纂スルト云フト之ヲ改ムルコトハナカナカ困難デアル、一部ヲ改ムル爲ミニモ全部改メバナラヌヤウニナルカラナカナカ骨ガ折レル隨テ大概ノコトハママアマア改メズニ辛抱シヤウト云フコトニ爲フテ、詰リ法律ノ進歩ヲ妨グルト云フノガ一ツノ重モナル理由ト爲フテ居ル、尙ホ附加ヘテ言フニハ法典ナドト云フモノガ出來ルト云フト、單ニ其解釋ノミニ汲汲トシテ居フテ、法律ノ學問ノ進歩ヲ妨グル、法典ト云フモノガナ

ケレバ各種ノ事項ニ付テハ假ニ成文ガアルトシテモソレ等ヲ一貫スル所ノ法理ト云フモノハ學者ガ之ヲ研究スルニ依フテ始テ明カニ爲ルカラ矢張リ學者ノ研究ニ待ツコトガ多イ、隨フ法律學ガ進歩スル、之ニ反シテ法典ト云フモノガ出來テ居ルト云フト一貫シタル理論ハチャント法典ノ中ニアル、縱合ソレガ明カニ書イテナクテモ解釋上自ラ出ルヤウニ爲フテ居ル、ソレダカラ詰リ法典ノ解釋サヘウマタシテ往ケバンレデ澤山デアルト、斯ウ云フコトニ爲ル、ソレガ學問ノ進歩ヲ妨グル、第一ニハ法律其モノノ進歩ヲ妨グ、第二ニ法律ノ學問ノ進歩ヲ妨グアルト、斯ウ云フノデス  
是ハ多少ハ理由ガアル、マルキリ理由ガナイトハ私ハ言ハス、如何ニモ數百條乃至數千條ヨリ成立フテ居ル所ノ法典ヲ改正スルノハ僅ニ數十條ヨリ成立チタル所ノ單行法ヲ改ムルヨリ事實困難デアル、佛蘭西ノ法典ハ百年前ニ出来タノデアル、ソレハ多少改マフテ居ル能ク外國ノ人ガ百年前ノ法典ガ其儘行ハレテ居ルナドト言フガ、ソレハ事實ニ相違スルノデ改マフテハ居ルガ併シ其改正ハ聊カ遲延タルコトヲ免レナイ、改メテモ宜ササウナコトガ其儘ニ爲フテ居ル部分ガ隨

分多イ、又學者ガ法典ノ解釋ノミニ汲汲トスルト自然法律ノ大原則ヲ研究スルト云フコトガ疎ニ爲ルト云フ弊ハアル、此中ニハ先達ノ本大學講談會ニ於ケル加藤君ノ演説ヲ聞イタ方ガアルカニ知レスケレドモ、法典ガ出來ルト其解釋ニ忙シクナル爲メ法典ノ大原則ヲ研究スルト云フ人ガ減フテ來ル、併シ私ノ思フニハ決シテソレハ心配スルニハ及バ又成程法典ガ出來ルト云フト改正ガ單行法ヨリ困難デアルコトハ事實デアルケレドモ、併シ全ク改正ガ出來ヌノデハナキ、矢張リ必要ガアレバ改ムル佛蘭西ノ法典デモ民法ナゾハ改マツテ居ル部分ガ少イガ、併シ數ヘ上ダテ見レバ隨分多ク改マツテ居ル刑法ノ如キハ七十年程以來殆ド全部改マツタ、商法モ其大部分ハ今日デハ皆改マツテ居ル、サウ云フ風ニ矢張リ佛蘭西ノ法典デアツテモ改マツテ居ル、唯併ナガラ佛蘭西法典ハ我我ノ眼カラ見テ改正ガ餘リ遲イ、セウ少シ早ク改メテモ宜イデアラウト想フコトガアルゾレガ爲スニハ適當ノ方法ヲ設クル必要ガアルダラウト思フ、外國デモ現ニ多少ソレヲ試ミテ居ル例ガアル露西亞ノ如キハ常ニ法律ノ改正ヲ掌ルベキ役所ガアツテ、ソコデ毎年法律ノ改正ニ從事シテ居ル、ケレドモ元來マダ充分ニ開ケナイン柄

ノコトデスカラ其割合ニ法律ガ進歩ハギテ居リマセシケビドモ其外ニ近來、西班牙、葡萄牙等ニ於テ改正ノ方法ヲ制定シテ居ル、ゾレハドウデアルカト言フト、先ヅ一ノ委員局見タヤウナモノガ出來テ、其處ニハ固ヨリ法律ノ専門家ガ集メテアル、而シテ大審院、控訴院其他ノ裁判所ニ於テ年年取扱ウタ事件ニ付テ法律ノ不備缺點ヲ感シタモノガアツラバソレヲ毎年集メテ司法大臣ニ報告スル、司法大臣カラ之ヲ委員會へ廻ス、サウシテ一定ノ年數ヲ経タ後十タシカ五年又ハ十年ト爲フテ居タト思ヒマスガ、ソレ等ノ意見ヲ集メテ、サウシテ必要ナル改正ヲ施スト云フ仕組デアル程ハ必ズシモ西班牙ヤ葡萄牙ノ眞似ヲスル必要ガアルトハ信ジマセヌガ、稍ヤタウ云フヤウナ方法ガ宜カラウト思フ、我邦デハ隨分法律ヲ改ムルコトハ何トモ思ハナイ、動モスレバ朝令暮改ノ弊ガアリスガ、併シソレデモ法典ト爲ルト容易ニ手ヲ附ケルコトハ出來マセスカラ、割ニ之ヲ改メタウト云フ意見ガ出ルコトガ少イヤウデス、又勿論輕輕ニ深タモ研究セズ、經驗モセズシテ改正スルコトハ朝令暮改デ宜シタナイコトデアル、殊ニ法典ノ如キハ相率連シタル多クノ事項ニ通ジア規定ガ設ケテアルカラ、蓋ニ其一部ヲ改正致

シマスド云フト、忽チ本權衡ナ結果ヲ生ジマスニ因フテ、容易ニサウ云フコトハ出來マセヌ、併ナガラ時勢ニ合ハナイモノガアフタナラバソレハ改メナリレシナラヌ、就中我法典ハ條約改正トノ關係等ニ因フテ餘程急速ニ出來タ、ダカラ缺點ノ多キコトハ固ヨリ其所デアル、況ヤ外國ノ多クノ法典ノ如ク從來行ハレテ居ラタ償督ヲ新ニ法律トシタト云フノデナクシテ多クハ外國ノ法律ヲ模範トシテ且我邦ノ國情ヲ考ヘテ大抵推測ニ依テ設ケタル規定デアル之ヲ實際ニ行ウテ見テハ國情ニ合ハス、時勢ニ適セヌト云フモノガ少クナインハ固ヨリデアル思フ、ダカラソレハ大ニ改メ子バナラス即チ愈、國情ニ適セス、愈、時勢ニ合ハナイト云フコトガ分ワタラバソレハ改ニ改メ子バナラス、ソレガ爲メニハ矢張リ西班牙ア葡萄牙等ニ於ケルガ如キ機關ヲ設ケル必要ガ私ハアラウト思フ、其機關ニ於ケハ必ズシモ五年トカ十年トカ云フ年限ヲ定ムル必要ハナカラウト思ヒマスガ、兎ニ角改ムベキハ改ムルト云フ爲メニ必要ナル調査ヲ爲スト云フコトガ宜カラウト思フ、其役所デハ裁判所辯護士等ノ意見ヲ集メテソレヲ参考シ又一方ニ於テハ外國ノ法律モ年年進歩シテ行クメデスカラ外國ノ新ナオ法律又ハ

學說等ヲ研究シテ、サウシテソレヲモ参考シテ愈、時勢ニ合ハス、國情ニ適セヌト云フ見極メガ附イタナラバ急ナルモノハ一箇條ヤ二箇條デモ改メヤウシ、又左ヤデ急フ要セヌモノハ數年ノ後、十數年ノ後ニ一括シテ之ヲ改メ、全部改メナクテモ其中ノ一章、一節ヲ改メテ行クト云フコトニナレバ決シテ法律ノ進歩ヲ妨ダルト云フコトハナイデアラウトスウ私ハ思フ  
ソレカラ法律ノ學問ノ進歩ヲ妨グルト云フコトデアリマスガ、ソレハ學者ノ重立フ者ノ研究方法如何ニ依ルノデス、縱令法典ガ出來マシテモ學者ガ學問ノ價値ト云フコトヲ十分ニ知ダナラバ單ニ法典ノ解釋ノミニ止マラズ立法論モ研究シキウシ、又種種之ニ關スル直接ノ實用ナキ學科モ研究スルデアラウ、今日ノ歐羅巴諸國々大抵皆法典國デアリスケレドモソレガ爲メ各國ニ法律學者ガ才オト云フ譯デハナイ、法律や矢張リ各國トモ進歩シテ行ク、適、佛蘭西ノ法律學ガ比較的進歩ガ鈍カバタ云フコトハ事實デアル、ソレ故ニ法律デハ最モ進ンシ居ルト稱セラレタ佛蘭西ガ今日デハ動モスレバ獨逸ニ一籌ヲ輸セナケレバナラヌ有様デカルガゾレハ偶然ノ事實ト私嘗て見テ居ル、偶然佛蘭西人法律家ハ大家

ガ久シタ出ナカツタ、十九世紀ニ於テハ法律家デ異ニ大家ト稱スベキ者ハ殆不出ナカツタ之ニ反シテ獨創ニハ眞ニ大家ト稱スベキ「オヘーリング」、「ダーリンド・シャイド」、公法ノ方デ言ヘバ「グナイスト」ト云フヤウナ人ガ續出タソレ故ニ大變ニ法律學ノ進歩ヲ助ケテ、遂ニ從來先輩タリシ所ノ佛國ヲ凌ギニ至ラノデアリサヌ、ケレドモ此ノ如キ大家ガ出レバ羅令法典ガアフテモ進歩スル、大家ガ出ナケレバ羅令法典ハナクアモ進歩セス、是ハ仕方ガナリ、例へば英國ニ法典ハナオガ、近來ハ餘リ法律ノ大家ガ出ナオヤウデアルカラ隨テ現在ノ法律學ノ程度ニ於テハ公平ナル眼ヲ以テスレバ佛國若クハ獨逸國ニハ確ニ劣フ、テ居ルト謂ハナケレバナラヌト思フ、先刻モ申ス通リ幾分カ法典ノ解釋ト云フロトニ汲汲トスル爲メ立法論其他法律ノ大原則ヲ研究スルト云フコトガ疎ニナリ易イト云フコトハ認ムテ居ル併シソレハ比較論ニ過ギスンデアル、テ本邦ノ法律ノ解説者、並島義理以上ヲ以テ性法制定法ノ御話ヲ了リセシタリ、併シテ本邦ノ法律ノ解説者、並島義理、

## 第二節 國法、國際法

此區別ハ學者ニ依フテ二様ニ觀察ヲ致ス、或ハ法律ノ淵源ヨリ觀察シテ此區別ヲ立タル其說ニ依ルト性法學者ト非性法學者ニ依フテ定義ガ達フ、先づ性法學者ニ言ハセバト「國法」ト云フベ「一國内ニ於テ定メラレタル法律」ト云フデアリマセウ、併シ之ニ對シテ「國際法」ハ「二國以上ノ間ニ定マリタル法律」ト云フデアリマセウ、併シ法律ノ淵源ヨリ觀察シテ國法、國際法ノ別ヲ立テルノハ非性法學者デアル、又併シカラ性法學者ハ通常此ノ如キ定義ヲ下サヌ、非性法學者ヨリ申セバ國法トハ「一國ノ主權者が直接又ハ間接ニ定メタル法律」デアル「國際法」トハ「二國以上ノ主權者が直接又ハ間接ニ定メタル法律」デアルト、斯ウ云フノデス耶カ「國內」事物ヲ規定スル法律デカツ、必ズニ國以上モ亘ラレ居ル事也、則爾者ニ非ヌト云此二様ノ觀察ノ仕方ガズアル、第二ノ觀察ノ仕方ノ方ハ古タカヲ行ハレテ居ル人ノ第一ノモノハ近來多ク獨逸ノ學者ガ唱スル所デアルハ國法ヨリ國外事、國外事

此二様ノ觀察ノ著シテ異ナシ點ハ國際私法ト云フモノハ國法ト見ルカ、國際法ト見ルカト云フ問題デアル、即チ國際法ト見大イ丸ナラバ「國際私法」ノ名ヲ成ルベク避ケナケン時ナラ又害デアルソレデスカラ國際私法ハ國際法ニ非ズト云フ學者ハ何トカ之ニ代ル名ヲ用ヒセウト云フノデ、法律抵觸法トカ或ハ涉外關係法トカ種種ナ窮シタ名稱ヲ試ミントスル者ガアル併シ一般ノ名稱ハ「國際私法」アル、即チ法律ノ淵源カラ云ヘバ國際私法ハ國法デアルト云フ、其理由トヨル所ヲ聞クト所謂國際私法ナルモノハ決シテ二國以上ノ主權者ガ定メタモノデハナクシテ一國ノ主權者が自由ニ定メタモノデアル例ヘヤ我邦ノ國際私法ノ原則ハ我法例ハ第三條以下ニ規定シテアル即チ我日本帝國ノ主權者が規定シタル法律ダカラソレハ國法デアルト斯ウ云フヤウニ云フノテスソレカラ法律ノ內容ヨリ觀察シテ定義ヲ下ス者ハ國際私法ハ則チ國際法デアルト云フ耶チ是ハ二國以上ノ人民間ノ關係ヲ規定スル法律デアル故ニ國際法デアルト云フ、粗思フニハ假ニ第一ノ觀察點ニ依テモ果シテ國際私法ガ國法デアルカドカラ多少ノ議論アルベキ事デアル、成程大部分云國法アルト云ヘマセウ併シ國

際私法ノ中ニハ往往條約ニ依ラヌ定マルモノガアル、我邦ニヤマダ其例ガ少イ併シ是カラ追追其例ガ出來ラ來ルダラダト思フ、又出來テ來ルコトヲ望ム、國際私法問題モ成ルベク條約デ極メル方ガ宜イ、サウスルト是ハ総合法律ノ淵源ヨリ觀察シタル所ガ國法デアルトハ云ヘナイト思フ、成程反對論者ハソレハ條約デ定メルコトガアラウトモ條約ガ直チニ法律ト爲ルノデハナイ、矢張リソレ一國ノ主權者ガ採用シテ別ニ法律ヲ作ルデアラウトスウ申ス併シ私ハ一旦條約ガ適法ニ成立シタル以上ハ総合之ヲ國內ニ施行スルニ付テ別段法律ガ出來ナクテモ國民ハ矢張リ之ヲ守ラチバナラヌ此主義ハ議論ガアルケレドモ我邦デハ既ニ政府及ビ議會ノ認ムル所ト爲フテ居ルト思フ、即チ公ニ認メラレテ居ルト言フテ宜カラウト思フ、ソレダカラ國際私法ト雖モ必ズシモ國法デアルト云フコトハ総令第一ノ觀察點ニ依ルモ言ヒ難イデアラウト思フ況ヤ私ハ第一ノ觀察點ヲ取ルヨリモ第二ノ觀察點ヲ取ル方ガ穩當デアルト思フ、其理由ハ二ツアル、一つハ我我ノ如ク性法ヲ認ムル者ハ法律ノ淵源ヨリ觀察スルト云フメガ甚ダ穩ナラスコトニカル前ニ申シタ通り強ヒテ言ハバ一國內ニ於テ定タル法律ガ

國法デアラ、二國以上ノ個々定タル法律ガ國際法デアルト云ヒマスクレドモ、抑モ天ノ理、人ノ性ニ基オテ定ムル所ノモノデアルカラ多ク、國内内外ヲ問ハスモノデアラ、淵源ヨリ觀察スルト云フコトノ當ラナイコトガ多キ、之ニ反シテ法律ノ内容ヨリ觀察レバ、一國內ノ事物ト二國以上ニ關スル事物トハ明カニ區別スルコトヲ得ルノデアルカラ我我ノ如ク性法ヲ認ムル學者ニハ第二ノ觀察點ガ程デアルト謂ハナラヌ。第二ニハ法律ノ淵源ヨリ論ズルトキハ凡ソ二國以上ノ條約ヲ以テ定ムルモノハ皆國際法デアルト謂ハナケレバナラスケレドモ從來ノ慣例上條約ヲ以テ定メテモ單ニ一國內ノ事物ニ限ルコトガアル、其著シキモノヲ言ヘバ關稅ノ如キモノデアル、我邦ノ今日ノ關稅ハ大抵條約ニ依フテ定ムル居ル、故ニ法律ノ淵源カラシテ云ヘバ我邦ノ關稅法ハ殆ド皆國際法デアルト謂ハナケレバナラヌガ、是ふ普通ノ國際法ノ觀念ニ反スルサウ云フモノヲ一般ニ國際法トハ云ハヌ、法律ノ淵源ヨリシテ國法、國際法ノ區別ヲ爲ス學者ト雖モ曾テ之ヲ國際法デアルト云タコトハ聞カヌ、成程ソレ等ノ學者ハ條約ニ依フテ定タルコトト雖モ更ニ國

法ヲ以テ之ヲ定ムルニ非サレハ國民ノ遵由義務ヲ生ゼスト云フ說ヲ取ルカモ知レマセヌガ、ソレハ前ニ論ジタ所ニ依シテ私ハ當ラナイト思ウテ居ル、ノミナラズ現ニ我邦ニ於テハ關稅ニ關スル競約モ唯條約トシテ公布ニハナツタガ、之ガ爲メニ法律又ハ特別ノ勅令モ何ニモ出ハセヌ、然ラバ若シ法律ノ淵源カラ言フナラバ少クモ我邦ノ關稅法ハ條約ヨリ生ジテ居ルト謂ハナケレバナラヌ(全部デハアリマセヌ、條約國ニ對スルモノ丈ケデハアルガ、ソレガ大多數デアル、條約國ト云フテモ支那ナゾハサウデナオ)、歐米諸國デアルソシナラバ關稅ガ條約ニ依フテ定マルト云フコトガ日本ニ特別ナ事カト言ヘバ決シテサウデナオ、不幸ニシテ我歐米諸國トノ條約ハ他ノ事ハ對等デアルケレドモ關稅ニ付テハ遺憾ナガラ不對等デアル、我邦ニ或貨物ヲ入レルト云フコトニ付テ稅率ガ定フテ居ルガ、我邦カラシテ對手國ニ或商品ヲ入レルコトニ付テハ稅率ガ定フテ居ラヌ、此點丈ケハ不對等デアル、歐米諸國ノ通商條約ハサウデナオ、例へば佛蘭西カラ獨逸ヘ或商品ヲ入レルトキニハ幾ラノ稅ヲ課スル、獨逸カラ佛蘭西ヘ商品ヲ入レルトキハ幾ラノ稅ヲ課スルト、斯ウ云フコトニ爲フテ居ル、各國皆此ノ如キ條約ガ存シテ

居ツノデ關稅ニ付テ何等ノ條約モナイ云フ國ハ寧ロ文明國ニハ少イ、大抵條約デ極ツテ居ル、ソレモ皆國際法ダト謂ハナケレバナラヌ、ソレハ從來ノ一般ノ觀念ニ全ク反スルコトデアルカラ私ハ矢張リ是マデノ一般ノ慣例ニ從フテ法律ノ内容ヨリ國法、國際法ノ區別ヲ觀察スル方ガ穩當デアルト思フ  
サテ是マデハ國際法ト云フモノラバ矢張リ法律デアルトシテ論ジテ居ルガ、學者ニ依フテハ國際法ハ法律ニ非ズト云フコトヲ唱ヘル、今其理由ヲ聞クト云フト、第一ニハ是ハ主權者ノ命令トナシ、如何ニモ其通りテス、國際法ト云フモノハ對等ノ國ガ互ニ約束ヲシテ極メルカ然ラズンバ其間ノ慣習ニ依フテ極メルト云ヒ  
マスクレドモ、直接又ハ間接ニ或主權者ガ命令スルト云フコトハナシ、對等國人間ニ命令ト云フコトハ有リ得ヌコトデアル、ソレガ一ツノ理由、今一ツニハ制裁ガナイト云フ國內ノ法律ナラバ或者ガソレヲ犯スト云フト裁判所ニ訴ヘテ甚シキハ刑罰ヲ科スルト云フヤウナ制裁ガアルケレドモ、國際法ニハサウ云フコトハナシ、ソレダカラ是ハ法律デナシト、斯ウ云フカガ國際法以法律ニ非ズト云フ說ノ根據ノヤウデアルサリ、國與國之間ノ交渉事務を主導スル事務を司る事務

私ハ此說ヲ採用スルコトハ出來ナシ先づ第一ニハ豫々法律ノ定義ヲ論ズル  
當チ主權者ノ命令トカ制裁トカ云フモノハ法律ノ要素ヂテコトヲ私  
ム論ジテ居ル故ニ此一ツノ理由デモ既ニ國際法ハ法律ニ非ズト云フ說ヲ論破  
スルニ足ルトハ思ヒマスクレドモ、尙ホ進ンデ論ズレバ第二ニ成程國際法ノ主  
權者ノ命令ト云ヘナシケレバモ併シ主權者ガ定メタモノアリトハ言ヘバ、  
此命令說ハ近頃大分學者間デモ命令ト云フテハ穩デナシト云フコトヲ唱ヘル者  
ガアルヤウデスカラ「命令」ト云フコトハ云ヘナニシテモ併大ガラ「定メタ」ト云  
云ヘル、國內ノ法律ハ一人ノ主權者ガ定メルノデアルガ、國際法ハ二人以上ノ主權  
者ガ定メルノデアル併シ各主權者デアルノダカラ主權者ガ定メタルモノニハ  
相違ナシ、第三ニハ性法論カラ言ヒマスルキ主權者ガ定メタト云フコトガ云  
ナクテモ差支ナシ、否事實上カラ言ヒマスルト國際法ハ主權者ノ定メタモノデ  
アルト言ヒ得ル部分ハ寧ロ少イノデアル、條約ヲ以テ定メタ部分ハ主權者ノ定  
メタ部分デアノ、慣習法モ或ハ主權者ガ定メタト云ヘルガ、併シ大部分ハ事實性  
法ニ依フテ定メル「グローバル」ガ殆ド始マテ國際法ト云フモノラ論ジタノデア

ルガ、此「グロシエス」が殆ド始メテ性法ト云フモノヲ論ジタノデアル、即チ「グロシエス」ハ性法ニ基イテ國際法ト云フモノヲ論ジタノデアル、其後國際法學者ハ性法ニ依テ種種ノ意見ヲ主張シナソレソレ實際ニ行ハレテ居ルノデアル、今日デモ條約デ定ラ居ルコト、又ハ先例ノアルニトロ除ク外ハ矢張リ性法ニ依テ國際法ノ問題ヲ決スルノ外ハナイ、故ニ國際法學者ハ性法ヲ否認スルコトハ殆ド出来ヌノデアル、即チ我我ノ如ク性法ノ存在ヲ認ムル者ハ國際法メ一大部分ハ性法ヨリ成立フ即チ主權者ガ定メタト云フコトハ必要デナイト斯ウ言ヒ得ラルノノデアル、終ニ第四ニハ國際法ニ制裁ガナイト云フスヘ甚ダ誤フタ説ズ、國際法ト雖モ悉ク制裁ガアル、其制裁ノ最モ強力ナルモノハ干戈デアル、是ハ法律上ノ制裁トシテハ甚ダ如何ハシク思ハビマスケレドモ國法ニ付テモ半開ノ社會ニアフテハ矢張リ此戰鬪ト云フモノガ一ノ法律上ノ制裁デアフタ、我邦デモ多分ナウダアフタラウト思ヒマスケレドモ研究ガ未ダ居キマセスカラ正確ナルコトハ分リアセスガ、歐羅巴ノ歴史ニ付テ者ヘテ見ルト云フト疑ナキ事實デアル、社會人未ダ進歩キザル時代ニアラハ私鬪ト云フモノガ即チ法律上ノ一ツノ制裁

デアフタ、其遺習トシテ今日矢張リ果シ合<sup>1</sup>。合<sup>1</sup>「デニエ」ト云フモノハ法律ハ之ヲ認メナイ寧ロ國ニ依テハ之ヲ罰シテ居ル、レドモ昔ハ法律的ノモノデアフタデスカネ果シ合ト云ヘバ唯殺合フト云フ意味デハナイ、ソレニハソレソレノ方式ガアブテ其方式ヲ屢マナケレバ果シ合ニナラニ、方式ヲ屢アズシテ事實上ノ果シ合ヲ致シマスレバソレハ國ニ依テハ謀殺トシテ論ズル、純然タル果シ合モ謀殺トシテ論ズル國モアルケレドモソレハ謀殺ヲ以テ論ジナイ國モアル、古ノ果シ合即チ私鬪ト云フモノハーノ法律上ノ制裁デアフタシンドガ社會ノ進歩ニ伴ウテ裁判所ト云フモノモ出來法律ト云フモノモ明カニ爲リ、主權者ノ權力モ逼タニ國內ニ及ブカウニ爲フカラ自ク其必要ガナクナヲ法律上認メナイコトニ爲フタ、國際法ニ於テハ未ダ頗ル幼稚ノ有様ニ於テアルカラシタ、ヤット今私鬪ノ時代デアル、是ガ矢張リ法律上ノ制裁デアルダカモ戰時公法ト云フテ戰爭ヲスルニ矢張リ法律ガアル、即チ戰爭ト云フモノモ一人法律のモノデアル、丁度昔私鬪ガ法律上ノ一ノ制裁デアブタメト同ジコトデアル、是ガ段段進歩シテ來タナラバ或ハ國內法ノ如クニ一般ノ法律ガ出來、一般ノ主

權者ガ出來、一般人裁判所ガ出來ルト云フヤクニ爲ルカモ知レヌ、今一ツハ仲裁ト云フコトデアル、仲裁モ矢張リノ制裁デアルト云ヘル、今日デハ既ニ和蘭ノ海牙萬國仲裁裁判所ト云フモノガ出來テ、現ニ只今我邦ノ外國人居留地ノ家屋税問題ニ付テ仲裁裁判ヲ請ウテ居ルノデスガ、是ガ或ハ將來萬國裁判所ノ萌芽ト爲ルデアラウト思ハレル、勿論仲裁ニ付スルト付セザルトハ原則トシテ自由デアル、ケレドモ併シ彼ノ海牙ノ萬國平和會議ニ加盟シタ者ハ幾分カ此仲裁裁判ニ付スルト云フ義務ガアルンデス而シテ一旦仲裁裁判ニ付シタ以上ハ其裁判ニ服從シナケレバナラス、仲裁裁判ハ必ず公平デアルトハ云ヘナイ、ソレハ丁度裁判所ノ裁判ガ必ず公平デアルト云ヘナイト殆ド同ジコトデアル、併シ大體ニ於テ不當ナルコトハ仲裁裁判所ノ採用スル所トハカラスデアラウト思フ、然ラバ是レ亦一人制裁デアルト云ヘル、成程薄弱な制裁デアルト言ヘバソレニ相違アリヤセヌケレドモ、是レ亦社會人幼稚ナル時代ニ於テ國內ノ法律ガ其通りデアタ、今日デニシヘ文明國ニハ皆裁判所ト云フヨハガアツテ争ガアレバ其裁判所ズ決スル、併シ今日デモ矢張リ仲裁ト云フコトハアル、其仲裁ト云フコトハ絶

體ニ自由デアルトハ云ヘナイ、民事訴訟法ニ現ニ規定ガアル所ガ開ケナイ社會ニ於テハ私闇ノ外ニ仲裁ト云フモノガ極メテ普通デアル殆ド制裁ト云ヘバ仲裁ト私闇ト此ニシカナカタ、果シ合ガイヤナラバ仲裁ヲ頼ム外ニハ仕様ガナカタ、其證據ニハ羅馬ニ於テ裁判官一官ト云フ字ガ或ハ當ラヌカモ知レマセヌ、羅馬ノ裁判官ト云フモノハ役人デハナインデスカヲ裁判員トデモ云々方ガ宜イカモ知レヌ、其裁判ヲスル人ト云フモノハ後ニハ矢張リ仲裁人デハナイ、ソレハ裁判ヲスル人デアル、併シ其名稱ハ仲裁人ト云フ字ヲ能ク用ヒタ「仲裁人」ト云フ字ガ即チ裁判ヲスル人ト云フ意味デアタ是ガ最モ沿革ヲ能ク言表シテ居ルノデ、昔ハ眞ノ仲裁人デアタ、ソレガイツシカ裁判ヲスル役人ト爲ツタ、官吏ト云フテハ惡イケレドモ免ニ角公吏位ニハ當ルゾレガ終ニ純然タル裁判官ト云フ官ニ爲ツタ、サウ云フ風ニ進化シテ來テ居ルゾレダカラ國際法ハ法律トシテハマダ極メテ幼稚ナモノデアル、丁度半開國ノ法律位ノ程度デアタ、隨テ其制裁モ私闇、仲裁ノ程度ニアル、ソレダカラ制裁ガナイトハ云ヘナイ、矢張リ制裁ガアル、仲裁ニ負クレハ受ケタ方ハソレニ從ハナイト云フ譯ハイカヌ、要スルニ國際法ハ

立派ナ法律デアルト私ハ思ク。終ニ臨ンデ國法ト云フ文字ノ意味ニ付テ一言致シタイコトガアル。ソレハ外デハアリマセヌガ、私ガ前ヨリ「國法」下稱シ來タルモノハ或ハ國內法ト申シテモ宜シイ。一國ノ法律ト云フ意味デアル、然ルニ近來我邦ニ於テ「國法」ト云フ字ガ他ノ意味ニ使ハル、ソレハ獨逸語ノ「Staatsrecht」ト云フ字ノ翻譯トシテ使ハレル、ソレハ今日始マフタコトデモナイ。獨逸學者ハ餘程前カラ此言葉ヲ用ヒテ居ル、唯獨逸學者ガ勢力ヲ占メタノガ比較的新シ不カラソレデ此言葉ガ比較的新シク使ハレテ居ル、是ハ一國ノ法律ト云フ意味デハナクテ國ニ關スル法律ト云フ意味デアル、私ハ寧ロ國事法トカ或ハ國家法トカ譯シタ方ガ宜イト思フ「國家法」ト云フノハ餘り面白イ言葉デハナイガ、併シ其方ガ分リ宜イカモ知レス、是ハ聽テ論ズベキ公法ノ中デ直接ニ國ニ關スル法規史ケラ意味スル、此言葉ハ殆ド獨逸ニ於テノミ行ハレテ居ル言葉デアル。以上ヲ以テ國法、國際法ノ御話ヲ終リヤシタ。

第三節 公法・私法

此區別ハ全ク法律ノ内容ヨリシテ觀察シタモノデアル、如何ナルモノヲ「公法」ト云フカ、如何ナルモノヲ「私法」ト云フカト云フ。公法・私法ノ定義ニ付テハ從來學者間ニ非常ニ議論ノアルコトデアル、殆ド學者毎ニ其定義ヲ異ニシテ居ル、併シ私ガ最モ穩當ナリト信ズル所ノ定義ニ依レバ第一公法トハ「國」及ビ其一部ガ其責格ニ於テ行動スル場合ニ關スル法律デアルト言フテ宜カラウト思フ、國ガ行動スルト言ヘバ或ハ租税ヲ徵收スルトカ、或ハ徵兵ノ仕事ヲスルトカ、戰爭ヲスルトカ、條約ヲ結ブトカ、ソレハ皆國自身ガスル行動デアル「其一部」ト云フノハ有形及び無形ニ於テ之ヲ觀察シナケレバナラヌ、有形ニ於テハ例ヘバ地方關係ト云フモノハ矢張リ國ノ一部デアル、無形ニ於テハ國ノ種種ノ機關デアル、司法、行政各部ノ勤ハ是ハ矢張リ國ノ勤ト言ヘル、何モ裁判所ト云フ法人ガアルノデハナシ、何何省ト云フ法人ガアルノデハナイノデスカラ、ソレハ矢張リ國ノ勤デアル、ケレドモ例ヘバ商業會議所ト云フモノガアル、是ハ一ノ法人デアル、其職務ハ如何

ト云フニ成程一方ニ於テハ或地方ノ商人ノ利益ヲ圖ルト云フコトガアリマスケレドモ、ソレニシテモ私人ノ利益ヲ圖ルノデハナイ、一地方ノ商業全體ノ利益ヲ圖ルノデアル、況ヤ商業會議所ノ職務ハソレバカリデハナイ、尊ロソレハ見様ニ依テハ附隨ノ目的デアル、國家ノ商業全體ニ付テ其繁榮ヲ圖ル、其利益ヲ進ムルト云フコトデアルノデスカラ是ハ一ノ公ノ機關、即チ國家ノ機關デアル、無形ニ言フタナラバ國ノ一部デアル、我邦ニハ一體サウ云フモノハ少オ、マダ商業會議所以外ニ於テ明カニ無形ノ國ノ一部デアルト云ヘルモノガアルカ、ドウカハ疑問デスガ、外國ニハ隨分サウ云フモノガアル例ヘバ官立ノ學校ト云フモノモマダ日本デハソレガ法人ト爲フテ居ラヌ併シ外國デハ隨分法人ト爲フテ居ル例ガ多イ、若シ是ガ法人ト爲フテ居ルト是レ亦國家ノ無形ノ一部デアル、教育ト云フ國家ノ仕事ノ部分ニ付テ勤クモノデアラ矢張リ國家ノ一部デアル、總テサウ云フ有形、無形ノ一部ガ「其資格即チ國ノ資格又ハ國ノ一部ト云フ」資格ニ於テ行動スル場合ニ關スル法律ヲ「公法」謂フノデアル、ナゼ斯様ナコトヲ言フカト云フト、此點ガ最モ議論ノアル一ソノ點デスケレドモ、國又ハ其一部デモ往往ニシテ私

人ト同一ノ資格ニ於テ行動スルヨリ大ズアリル、例ヘバ國ガ必要ガアラ土地ヲ買クト云フ、サウスルト土地ノ所有權ト云フモメ外國家ガ之ヲ有スル場合デモ一私人が有スル場合デモ原則トシテハ同ジデアル、登記モシナケレバナラヌ、又其範圍モ同ジデアル、又ソレニ關スル賣買ト云フ契約ヲ結ブト云ヘバ此賣買モ矢張リ民法ノ賣買ニ關スル規定ニ依ル、成程公法上國ガ賣買ヲスルニ付テ特別ナルコトハ固ヨリアリガ、ソレハ競賣ニ依ラナケレバナラヌトカ、或ハ特別ノ場合ニ限フテ隨意契約ガ出來ルトカ云フヤウナコトデアル、ソレヲ除イテハ矢張リ民法ニ依ラナケレバナラヌ、此場合ニハ民法ガ公法ト爲ルト云フ譯デハナイノデ、ソレハ私人ト同一ノ資格ニ於テ國ガ行動スルノデアル、ソニカラシテ國及ビ其一部ガ其資格ニ於テト云フコトガ必要デアル、即チ國及ビ其一部ノ官制ノ如キ官制、各省官制、地方官官制ノ如キ官制、或ハ裁判所構成法ノ如キハ皆國ノ組織ニ關スル法律デアル省ト云フテ一箇條モ残リナクト云フ意味デ

バナイ、今後申スコトモ是マデ申シタコトモ具體的法律例ヘバ「裁判所構成法」ト云フ名ノ附イテ居ル法律、憲法下云フ名ノ附イテ居ル法律例ハ「裁判所構成法」ト類ノ法律ニ屬スルト云フ。コトハ言ヘナオ、況ヤ國ノ組織ノ規定ト云フ。モソレバカリデハナイ、外ノ事モ規定シテアル、唯主トシテ如何ナル種類ニ屬スルカト云フノデアル。ソレカラ國ト人民トノ關係、是ハ例ヘバ刑法ノ如キ、人民ガ或行爲ヲ為スト云フ。ト國ガ罰スル、是ハ國ト人民トノ關係ヲ示シタモノ。行政法デモサウ云フモノガ澤山アル、例ヘバ土地收用法、或場合ニ私人ノ財產ヲバ國家ガ取上ダル、即チ國ト人民トノ關係ゾビカラ國ト國トノ關係、是ハ國際公法、ソレガ皆公法ノ中ニ含マレテ居ル、ソレハ皆定義ニ嵌マル「國及ビ其一部ガ其資格ニ於テ行動スル場合ニ關スル法律」。第二ハ私法。其定義ハ「同國又ハ國ヲ異ニセル人民又ハ人民ト同一ノ資格ニ於テ行動スル國若クハ其一部ノ間ノ關係ヲ規定スル法律」デアル。普通ノ私法ハ皆同國ノ間ノ人民ノ關係ヲ規定シタモノデアル。併シ「國際私法」ト云フト國ヲ異ニセル人民ノ間ノ法律デアル。ソレカラ先別申シタ通ツニ國又ハ其一部ト雖モ私人

### 式上ノ權利ノ二種ト爲ス

#### 甲 實質上ノ權利

自國モ直義豈異人更長國モ直義莫非然也。又國外之實質上ノ權利又謂之實質上ノ第一節 立法權  
國家ハ不羈獨立ガルモノナルカ故ニ任意ニ法律ヲ制定スルコトヲ得但之カ爲メニ外國ノ權利ヲ害スルコト能ハナルハ勿論ナリ苟モ外國ノ權利ヲ害セタル限ハ如何ナル法律ヲ制定スルモ全ク自由ナリ但外國トノ條約ニ由リテ立法權ノ制限ヲ受タルコトヲ妨クス例ヘハ獨逸カ嘗テ佛蘭西及ヒ瑞典ヨリ自國ノ憲法ノ保障ヲ受ケテ自由ニ自國ノ憲法ヲ變更スルコト能ハナルノ義務ヲ負ヒタルカ如シ要スルニ國法上ヨリ觀レハ立法權ハ絕對無限ナルヘキモノナリト雖モ國際法上ヨリ觀レハ立法權ハ時トシテ制限ヲ受タルコトアルモノナリ重大事件ニ對付スル時、鐵道本邦ノ國外ノ事務又港長船頭ヘ混合車セラム大矣  
國家ノ司法權モ亦立法權下等シテ絕對無限者リ然レト著立法權ノ場合ト等シ

タ自國ノ司法權ヲ濫用シテ外國ノ権利ヲ毀損スルコト能ニ無  
司法權ノ例外トシテ何等特別ノ合意ナキニ拘ハラス一國カ内國ニ在ル人又ハ  
物ニ對シテ司法權ヲ及ボスコト能ハサルモノアリ治外法權ノ場合即チ是ナリ  
又特別ノ條約ヲ侍チテ之ニ因リテ司法權ノ制限ヲ受タルモノアリ其最モ重ナ  
ル場合ハ領事裁判権混合裁判権犯罪人引渡ノ義務是ナリ  
治外法權トハ原則トシテ當然内國ニ在ル人又ハ物カ司法權メ管轄ノ下ニ立タ  
サルモノヲ謂ヒ領事裁判権トハ特別ノ條約ヲ侍チテ外國ノ人或ハ物カ内國ニ  
在ルニ拘ハラス内國ノ裁判権ノ下ニ立タスシテ外國人ノ本國ヨリ内國ニ派遣  
セラレタル領事ノ裁判権ノ下ニ立ツモノヲ謂ヒ混合裁判権トハ特別ノ條約ノ  
約定ニ因リテ内國人ノミヲ以テ裁判官ト爲スコト能ベシテ外國人ヲ交ヘテ  
裁判官トセザルヘカラナル場合ヲ謂ヒ犯罪人引渡トハ又特別ノ條約ニ因リテ  
自國ニ在ル犯罪人ヲ外國ニ引渡オサルヘカラナル義務ヲ負フコトヲ謂フ

第一款 治外法權

治外法權ノ根本ハ甲國ノ人及ヒ物カ乙國ニ在ルモ乙國ノ屬地主權ニ衝突セテ  
リ限ハ甲國ノ法規ニ從フト云ヲ長在異邦事務ニ有ル者少ナニ成ル故也  
在リ治外法權ニ屬地主義ノ例外ニシテ此例外ハ唯實益上ニ生起タルモノ大  
リ所謂實益トハ依リテ以テ國家間ノ平和的關係ヲ持續セシムト云フコト是  
ナリ但茲ニ申公勅土ノ管轄ヲ有スル事モ大體を以テ自領ニ堪能スル事無  
治外法權ノ起リタル最先ハ國家間ノ平和的關係ヲ持續セシムンカ爲ミニ第十一  
七世紀ニ於テ外國ノ公使ヲ駐在國ノ法律ヲ適用セナルトキシタルニ在リ而  
モ之カ爲ミニ駐在國ノ主權ハ害セラルルニトナリト考ヘラレタルナリ簡單ニ  
言ヘハ治外法權トハ屬地主義ノ例外トシテ屬人主義ニ從フモノナリ  
治外法權ヲ享クルモノカ如何カル國々主權ニモ服從セスト思惟スルハ大ナル  
誤謬ナリ何止ナリハ治外法權ヲ享クルモノハ滯在地ノ主權ノ下ニ立ツコトヲ  
免ルルモ屬人主義ニ從セテ其本國ノ主權ニ服從スルヨリ免ルルモノニ非サ  
レバナリ

治外法権ヲ享タルモノハ左ノ如シ但治外法権ヲ與フルニハ(第一)平時ナルコト  
ヲ要シ(第二)其地ノ重大ナル秩序ヲ害セナルヨトヲ要ス何トナレハ國家ハ自國  
ノ大ナル損害ヲ寛假シツク或者ニ自國ノ法律ヲ適用スルヨトヲ敢テスル能ハ  
ナルノ義務ヲ負フモノニ非サレハナリ主計ニテ羅勃サヌモ思錯本熱參次威  
第一ニ國家主計ニテ羅勃主義也。既者主義ニテ羅勃主義也。既者主義也。既者  
國家カ治外法権ヲ有スエバ國家ノ財產カ外國ニ於テ其外國ノ法律ノ適用ヲ免  
ルト云フノ意ナリ蓋シ治外法権ニハ必ス常ニ人或ハ物カ外國ニ現在スト云  
フコトヲ前提トスル是ノナレハナリ平時ノ國體又執事也。既者主義也。既者  
國有財產ノ中公法上ノ性質ヲ有スルモノ即チ公ノ目的ニ供スルモノノミニ治  
外法権ヲ與ヘ私法上ノ性質ヲ有スルモノ即チ直接ニ收入ヲ目的トスルモノニ  
對シテハ治外法権ヲ與フヘカラストノ說アリ然レトモ此兩者ノ間ニ判然タル  
區別ヲ設タルヨトハ到底不可能ナリ。信ス故ニ國家ノ財產不其如何ナルモノ  
ナルヲ問ハス總テ外國ニ於テ治外法権ヲ享タルモノナリトスルヲ穩當ト信ス  
第二ニ元首是本ヘ里圖々人以シ神也。國ニ在ルモ國ヘ羅勃主計ニテ羅勃主計ニテ

元首ヲ分チテ君主及ヒ大統領ト爲ス元首カ外國ニ於テ其滯在國ノ主權ニ服從  
セナル理由ハ若シ之ニ服從セナビカラストスレハ本國ニ於テ十分ニ統治ヲ  
爲スコト能ハナルヘシト云フニ在リ但大統領ノミハ治外法権ヲ享タルコト能  
ハストノ說ヲ唱スル者アリ例ヘ「ブルンチウ」、「ソビエー」、「ウルマン」ノ如キヘ  
此說ヲ取ル者ナツ然レトモ大統領ト雖モ其元首トシテ本國ノ統治ヲ爲スノ點  
ニ於テハ君主ト異ナルコトナキカ故ニ均シク治外法権ヲ與フルコトヲ正當ナ  
リト信ス國更分離ラキ長國ニ居ルノ英國イギリス國モテ諸侯安シテ國外ノ領事  
元首カ外國ニ在ルトキハ私用ヲ以テスルト國家ノ用務ヲ以テスルトヲ問ハナ  
ルモノナリ若シ私事ヲ以テ外國ニ在ル場合ニ治外法権ヲ與ヘストスレハ之カ  
爲スニ本國ニ於ケル統治ヲ十分ニスルコト能ハナルハ當然ナリ古ニ於テ之ニ  
反對ノ實例アリタルコト歴史ニ於テ散見スル所ナリト雖セ今日ノ國際法上此  
事ニ關シテ疑フ挾ムコトナシ唯其元首ニ伴フ家族、從者、元首ノ用ニ供スル物件、  
元首ノ家族又ハ從者ノ私用ニ供スル物件ノ如キハ治外法権ヲ享タルコト能ハ  
ナルモノナリト主張スル學者ナキニ非ス然レトモ實際ニ於テハ此等ノモノゾニ

モ治外法權ヲ與之ルニト疑カズ更ニ進ミテ英國ニ於テハ外國ノ元首ノ商品ニ  
對シテスラ治外法權ヲ與シタ所コトアリ。彼等ノ謂長老議會事務委員會也。君主ニ攝政アル場合ニ於テ君主又ニ攝政カ外國ニ在ル場合若クハ君主ト攝政  
トカ共ニ外國ニ在ル場合ニ孰レニ治外法權ヲ與フヘキセノ疑問ハ學者名問題  
ト爲リシヨトヲ聞カス又實例ニ於テ争ト爲リシヨトヲ知ラス惟ブニ如何ナル  
場合ニ於テモ兩者共ニ治外法權ヲ享クシキモノナルヘシ。莫ハ長老議會事務委員會也。  
第三ニ公使ニ道威モ領事モ其職務上ノ事務ヲ行フ。此ノ領事モ英國領事也。其職務上ノ事  
公使ガ本國ヲ代表シテ外國ニ駐在シ本國ト駐在國トノ親交ヲ圖ルコトヲ職務  
トスル者ナリカ故ニ駐在國ハ之ニ向テ治外法權ヲ與フルナリ。公使ノ住居及ヒ  
勤務ハ職務上ノ物タルト非職務上ノ物タルトヲ間ハス皆治外法權ヲ有ス此兩  
者ノ間ニ區別ヲ設ケタルノ理由ハ猶ホ國家及ヒ元首ノ場合ニ公用ニ出ヅルモ  
シト私用ニ出ヅルモノトヲ區別セサルカ如レ。モハ長老議會事務委員會也。其職  
公使カ公使タビノ職務ヲ行フニ補助ヲ與フル者即チ公使館ノ館員ハ總テ治外  
法權ヲ享タ例ベカ公使館書記官公使館武官職間官吏譯官技術官小使、門番等ノ  
如キモハ長老議會事務委員會也。

英國モ太西洋及ヒ太平洋ヲ航海スル郵船會社ト特約シ之ニ一定ノ補助金ヲ與  
ヘ政府ノ通知アルヤ否ヤ何時ニテモ其船舶ヲ攻府ニ賣却又ハ貸與スルコトト  
シ船舶ノ構造ニ付テモ戰時ニ於テ武裝ノ必要上豫メ海軍省ノ指揮ヲ受ケシメ  
其特約アル船舶ノ船員半數ハ海軍ノ軍備士官ヲ以テシ米國モ千八百九十二年  
以來同國商船會社ト同一ナル契約ヲ締結シ米西戰爭ニ於テハ其會社ノ迅速ナ  
ル船舶ヲ徵用シテ運送船及ヒ斥候船ニ用ヒ佛國及ヒ獨國モ各自國郵船會社ト  
斯ル特約ヲ爲シ居レフ。

### 第三節 海上捕獲

貴ぞ或良土は中立國權内三道國事及國事領内三道國事合ノ趣旨而要するを  
交戰國カ戰闘巡洋ノ艦船ヲ以テ公海及ヒ交戰國雙方ノ領海ニ於テ捕獲沒收  
得シキモノハ敵國ノ船舶及ヒ載貨止マラス一定ノ場合ニハ中立國ニ屬スル  
財產ヲモ捕獲シ得ヘキモノナレトモ中立國ノ財產ニ關スルモノハ局外中立ノ  
法則ニ於テ説明シ本節ニ於テハ海上捕獲メ法則中敵國財產ニ關スルモノ禁止  
ムシキ。

中世ニ行ハレタル「コンソラード、マール」法典ノ規定ニ據レハ海上ニ於テハ船舶ト載貨トヲ問ハス敵國政府者ノ其人良リ所有ニ係ルモノハ悉ク捕獲シ得ルコトトシ其結果トシテ敵國ノ艦船ハ悉ク捕獲セラレ得ヘク載貨ニ付テハ敵船内ニ在ル場合ハ勿論中立國ノ船舶(軍艦其他ノ官船ハ例外)内ニ在ル場合ト雖モ之ヲ捕獲シ之ニ反シ中立國ノ船舶ハ捕獲セラルコトナク又中立國ノ載貨ナル以上ハ中立國船内ニ在ルトキハ勿論敵船内ニ在ル場合ト雖モ捕獲セラレナリシカ此法則ニ異ナリタル法規ヲ甫テ設定シタルハ佛國ニシテ一千五百四十三年同國王フランシス一世ノ法令ニ於テ敵性感染主義ノ規定ヲ設ケ敵國ノ載貨ヲ有スル船舶ヲ悉ク敵船ト看做シ敵船内ニ在ル載貨ハ其所有者ノ何人ナルヲ問ハス悉ク敵物トシテ沒收シ同一趣旨ノ法令ハ一千五百八十四年ニ發布セラレ此新規定ヲ設ケタル理由ハ中立國人ノ詐欺ヲ防クニ在リテ其法則ノ一部ハ「ルイ十四世ノ海上勅令」一部トナレリ然レトモ第十六、七世紀ニ於ケル諸國一般ノ商業カ發達シタルニ從ヒ戰爭中ハ成ルヘク第三國ノ商業ニ損害ヲ與ケルコトヲ避タルノ趣旨ヨリシテ各交戰國ニ捕獲審檢所ヲ設置シ海上ノ拿捕物

ハ拿捕者ニ於テ必ス同法廷ニ引致シ其審判ニ由リ沒收ト否トヲ決スルコトト爲リ又同一ノ趣旨ヨリシテ和蘭國ノ主唱ニ基キ千六百五十年蘭西兩國ノ通商條約ヲ以テ自由船自由物及ヒ敵船敵物ノ二主義ヲ包含スル法則ヲ約定シ此法則ニテハ船舶ノ捕獲ト否トハ固ヨリ其所有者ノ敵人ナルト中立國人ナルトニ依リテ之ヲ區別スルト同時ニ載貨ノ沒收ト否トヲ決スル標準ニ付キテハ其物品ノ所有者如何ニ拘ハラス之ヲ搭載スル船舶ノ國性如何ニ因ルコトト爲シタルヲ以テ所有者ノ敵人ト否トヲ問ハス敵船中ニ在ル物品ヲ總テ敵物トシテ中立國船内ニ在ル物ヲ自由物即チ捕獲スヘカラサルコトト爲シ苟モ船舶カ敵國ニ所屬スルトキハ載貨ト共ニ其船舶ヲ沒收シ中立國船舶ナルトキハ其船舶ハ勿論同船内ニ在ル敵國人ノ載貨ヲモ捕獲セナルコトト爲シタルモノトスルガ條約ハ第十八世紀ニ亘リ多數ノ國家間ニ締結セラレ學者中之ヲ當時ノ國際公法ト爲リタルモノト説述シタルモノアリタルニ拘ハラス實際ニ於テ一般法則ト爲ルニ至リタルニ非ス單ニ條約上ノ義務トシテ行ハレ又時トシテハ自由船、自由物ノ主義ヲ斥ケテ單ニ敵船、敵物ノ主義ヲ採リタル事ノ體リ之再展シテ英

ク一致ヲ歛キタルモノトス  
タル結果トシテ千八百五十六年巴里宣言ニ於テ之ヲ一定シ  
局外中立國ノ旗章ヲ掲タル船舶ニ搭載スル敵國ノ貨物、戰時禁制品ヲ除ク外之  
又第三條ニ  
敵國ノ旗章ヲ掲タル船舶ニ搭載スル中立國ノ貨物、戰時禁制品ヲ除ク外之  
ヲ拿捕スヘカラサルコト  
ト規定シ前者ニ於テハ自由船自由物ノ主義ヲ採リタルト同時ニ後者ニ於テハ  
敵船敵物ノ主義ヲ採ラシテ中世以來ノ法則即チ物品ノ所有者如何ニ依リ捕  
獲スルト否トヲ決スル主義ヲ採リタルモノトス此故ニ現行法ニ於テハ敵國船  
舶ハ官船ト私船トヲ問ハス悉ク捕獲ノ目的物ト爲リ敵國ノ載貨ニ付テハ中立  
國ノ船舶内ニ在ルトキハ之ヲ沒收セス單ニ其物品カ敵國船舶内ニ任ル場合ニ

第一款 捕獲免除ノ船舶

於テノミ捕獲沒收セラルニ過キス尙ホ海上捕獲人目的物及ヒ捕獲審檢所ニ  
關スル法則ヲ審ニスルカ爲メ左ニ分説セン  
**第一款 捕獲免除ノ船舶**  
交戦國カ海上ニ於テ捕獲シタル船舶又ハ載貨ヲ拿捕物ト稱シ拿捕ヲ行ヒ得ヘ  
キ海上ハ中立國領海以外ニ限り交戦國軍艦カ敵國艦船ヲ公海ヨリ追蹤シタル  
場合ニ於テモ其艦船カ中立國領海ニ入ルトキハ之ヲ攻撃若クハ拿捕シ能ハサ  
ルノミナラス臨檢搜索ヲモ行フコト能ハスシテ斯ル行爲ヲ同領海ニ於テ爲ス  
ハ中立國主權ノ侵害ニシテ本國ハ同中立國ニ對シ其責任ヲ免カルコト能ハ  
ス而シテ拿捕ノ目的物タル敵國財產中ニ付キ其船舶ハ軍艦其他ノ官船ナルト  
私船ナルトヲ問ハス之ヲ捕獲シ得ヘシト雖モ文明諸國ノ慣例上人類一般ノ幸  
福ニ基キ一定ノ船舶ハ官船ト私船ノ別ナク捕獲スヘカラサルコトトシ我海  
軍捕獲規定第三條ニ於テモ

## 第一 沿海漁船

海上捕獲

## 第二 學術、慈善救護ノ爲ニ航行スル船舶

## 第三 病者、負傷者ヲ輸送スル船舶

海上捕獲

## 第四 燈臺用船

ト規定セリ就中漁業船ハ私有船舶ニ限リ其他ハ官船並モ私船ノ包含スルモノニシテ現行法上捕獲免除ノ敵船ヲ列舉セバニ捷々北齊書ニ載文也以テノ由ハ第一 土地ノ探検其他學術上ノ發見ヲ目的トスル船舶ノ捕獲免除ハ近世ニ生シタルモノニシテ千七百七十六年米國獨立戦争中英國探検船二艘カ土地探檢ノ爲メ船長クック率ユル所ト爲リ亞米利加洲ニ向ケ出發シタルニ佛國海軍省ハ其海軍及ヒ殖民地ニ訓令シ同船ノ航海ヲ妨ヶス之ヲ友誼國船舶ト同一ニ待遇スヘキコトシ其後文明諸國ハ之ニ倣ヒ第十九世紀ニ入リテモスル實例多ク千八百五十九年伊塊戦争中塊國官船ノバラ號カ伊國ノ妨害ヲ受ケシシテメシナ海峡其他同國沿海ニ於テ學術上ノ探検ヲ爲シタルハ其一例ナリ

## 第二 病者負傷者ヲ救護スル船舶ニ付テハ千八百六十八年赤十字條約追加條款ニ於テ其規定ヲ爲シ同條約ハ批准ニ至ラサリシカ普佛戦争中之ヲ實行シ其後ノ戦争ニ於テモ諸國ハ之ニ準據シ更ニ平和會議ノ條約中亦十字條約ノ原則ヲ海戦ニ應用スル條約ニテ確定スルニ至リタルモノニシテ同條約ニ於テ交戦國政府ノ軍用病院船箇人若クハ救恤協會ノ病院船又ハ中立國ノ病院船ヲ捕獲スヘカラナルト外中立國ノ商船遊船又ハ端舟ニシテ交戦國ノ病者傷者若クハ難船者ヲ搭載シ又ハ收容スルモノハ其輸送ノ爲メ捕獲セラルコトナシト規定シ就中軍用病院船ハ官船ナレトモ交戦國雙方ノ病者傷者ヲ等シク救護スルノ義務アリテ其義務ノ性質上局外者ノ地位ニ在ルヘキカ故ニ同條約ノ規定ニ依リ交戦國雙方ハ他ノ船舶ト同シク之ニ臨檢シ其行動ヲ監督シ得ヘキモノト爲シタルニ拘ハラス其職務ノ範圍ヲ超過シタル違反ノ所爲ナキ以上ハ之カ捕獲ヲ免除シタル所以ナリテ集会ノ規則モ之ヲ准據シテ之ヲ実行開闢

第三 燈臺用船ハ官船ノ場合ニ於テモ一般航海者ノ安全ヲ圖ルニ必要ナルカ故ニ軍事上ノ目的ニ使用セラレサル限ノ捕獲セラルコトナシ  
第四 俘虜交換船軍使ヲ運搬スル船舶ノ如キ戦争ノ法則上不可侵ノ待遇ヲ有

スル船舶ヲ捕獲ヲ免除就中俘虜交換船ハ交戦者間ノ約定ニ係ル交換俘虜ヲ運搬ノ爲メ使用セラレ普通敵國政府ヨリモ通航券ヲ受クルモノナレトモ其通航券ヲ有セサル場合ニ於テモ其任務ノ明白ナルモノハ捕獲セラルコトナキノミナラス俘虜ヲ搭載シ居ル場合ニ於テノミ捕獲セラレサルニ限ラスシテ同船舶カ俘虜ヲ送付シタル歸途又ハ引渡ヲ受タルカ爲メ航海中ノ如キ空艦ナシ場合ニ於テモ捕獲セラルコトナシニ過効其行動ヲ監督シ費ハサムキノ第五沿海漁船ヲ捕獲セサルハ古來主シテ佛國ノ主張ニ出テ此慣行ハ千四百三年英佛戰爭中ニ於テモ其形跡ヲ止メ佛蘭兩國間ニハ千五百三十六年鍊漁ノ船舶ヲ捕獲セナルノ協定ヲ爲シ第十六世紀中ニ於テ佛國ハ法令ヲ以テ其捕獲ヲ免除セリ然ルニ千六百八十一年ノ有名ナル海上勅令ニ於テハ敵國ノ漁業船ニ此特權ヲ認メナリシカ是全タ英國ニ於テ佛國ノ漁船ヲ捕獲シタルカ故ニ其規定ヲ置カナリシニ止リ其後米國獨立戰爭マテハ英佛兩國共ニ其捕獲ヲ行ヒタリシカ千七百七十九年佛國王ルイ十六世ノ勅令ヲ以テ再ヒ其免除ヲ規定シ英國ト交渉ノ末英國モ亦之ニ同意シ米國獨立戰爭及ヒ佛國革命戰爭中ニ於

テ兩國其ニ其捕獲ヲ免除セリ然レトモ英國ノ見解ニ於テハ漁船ノ免除ヲ國家ノ好意ニ基ク處置ト爲シ佛國ハ之ヲ國際公法上國家ノ絕對的義務ト爲シタルコトナレトモ畢竟スルニ沿海漁業ヲシテ戰爭中其職業ニ從事セシムルハ該細民ハ戰爭ニ關係ナキ糧食即チ魚類ヲ交戦國人民ニ供給スルニ止マリ且海上ノ危險ヲ冒シテ小ナル生計ヲ營ムモノナルニ拘ハラス戰爭ニ依リ其無害ナル職業ニ防害ヲ與ヒ船舶及ヒ漁具ヲ沒收スルハ戰爭ノ目的ニ影響ナクシテ甚シキ困難ヲ其生活ニ與フルモノナルカ故ニ人情之ヲ爲スニ忍ヒサルニ出テタルニ過キス此故ニ英米兩國ニ於テハ條約上ノ義務ナルカ又ハ交戦國ノ好意ニ出タルモノト看做ス所以ナリ殊ニ鯨漁、臘虎漁ノ如キ大洋ノ漁業ニ從事スル船舶ハ此特點ヲ有セサルコト一部少數ノ學者ヲ除クノ外一般ニ異論ナク我捕獲規定ニ於テモ捕獲ノ免除ヲ大洋ノ漁船ニ及ホナナルノ趣旨ヨリシテ單ニ沿海漁船ニ限リタル所以ナリ

第六 官船ト私船トヲ問ハス難破ヲ避ケ若クハ糧食缺乏等航海ニ堪ヘサル必要ニ迫リ又ハ戰爭ノ事實ヲ知ラスシテ敵國ニ入リタル船舶ハ時トシテ捕獲ヲ

免除セラレタルコトアリ千七百四十六年英國軍艦エリザベス號カ「ハグアナ」港ニ入りタルニ西國ハ之ヲ修繕セシメ保護ノ免狀ヲ與ヘテ退去ヲ命シ千七百八年英國商船カ「ホンダラス」港ニ入りタルニ佛國ハ同船カ開戦ノ事實ヲ知ラナリシ事由ニ基キ之ニ糧食ヲ與ヘテ退去ヲ許シ千七百九十九年普國艦「ザセナ」城カ「ダンカルク」港ニ入りタルニ佛國ハ之ヲ退去セシメタルカ如キ是ナリ然レトモ英國ハ古來斯ル場合ニ於テ敵船ヲ沒收シ此點ニ付テハ實例及ヒ學說一定セヌ正義、人情ノ點ヨリ其不幸ニ乘シテ利ヲ貪リ其船舶ヲ沒收セルハ不正ナリト説ク者アレトモ敵國軍艦ノ如キハ其捕獲ト否トハ戰爭ニ大關係アルカ故ニ無條件ニテ退去セシムルコトヲ以テ未タ交戦國ノ義務ナリト云フコト能ハス

第七 郵便船モ亦官船ト私船トノ別ナク時トシテ捕獲セラレサリシコトアリ千七百九十三年英佛兩國ハ郵便局ニ使用シタル郵船ヲ戰爭中互ニ捕獲セス千八百四十三年及ヒ千八百五十六年英佛條約ニ於テモ戰爭中互ニ之ヲ捕獲セナルコトトシ近年郵便船ニ關シテハ一般ニ寛大ナル待遇ヲ爲スニ至リタレトモ條約ヲ以テスルニ非サレハ未タ其免除ヲ國家ノ義務トスルコト能ハサルカ姑

## 第二款 私有船舶及ヒ載貨

交戦國カ敵國ノ私有船舶及ヒ載貨ヲ捕獲シ得ヘキコトハ中世以來争フヘカラナル法則ナルニ拘ヘラス千七百八十五年普米兩國間ノ通商條約ニテ其免除ヲ規定シ其後米國大統領「モンロー」及千八百五十六年「アダムス」モ英米、露三國ニ交渉シテ其免除ノ條約ヲ設ケントシテヨリ以來近世海上ニ於ケル敵國私有財產ノ捕獲ニ反對ノ議論盛ニシテ其理由トスル所ハ(第一)戰爭ハ國家間ノ争鬭ニシテ國際公法上私有財產ヲ不可侵トスル原則ニ適合セス(第二)戰爭ニ於テ敵國ノ戰闘力ヲ奪フノ行爲ハ正當ナレトモ私人ノ船舶、載貨ヲ掠奪スルハ戰闘力ヲ減スルモノニ非ス體ヲ私有財產ノ海上捕獲ハ戰爭ノ目的ヲ達スルニ必要且直接ニ非ス(第三)陸上ニ於テ私有財產ノ尊重ヲ原則トスル以上ハ海上ニ於テモ同一ナルヘキニ拘ヘラス海上捕獲ニ於テ此原則ヲ認メナルハ不當ナリ(第四)陸上ニ於ケル徵發取立金ハ一定ノ方法ヲ以テ占領地一般ヨリ公平ニ徵收スルモノナル

ニ反シ海上捕獲ハ物品所有者タル簡人ニ悲慘ノ損害ヲ生スカ故ニ其性質上掠奪ト同一ナリ(第五)徵發取立金ハ軍隊ニ直接且必要ノ物品ノミヲ徵用スルニ拘ヘラス海上捕獲ハ戰闘員ノ日常品ヲ取得スルニ非ス體ヲ其捕獲セラルヘキ物品ノ種類及ヒ程度ニ制限ナキハ不當ナリ(第六)近世開戦ニ當リ交戰國ノ港内ニ在ル敵國船舶ニ退去ヲ許シ又商業計画ノ查浦航行ト爲リタルカ爲メ海上ノ危險ヲ冒シテ航海スル者ノ數ヲ減シ體テ海上捕獲ノ實用ハ減縮シ來リタルカ故ニ之ヲ存續スルハ交戰國ノ不利益ニテ中立國ヲ利益スルモノトス何トナレハ數國商人ハ中立國船舶ニ貨物ノ運搬ヲ依頼シ又ハ中立國ニ船舶ヲ移シテ捕獲ヲ免ルヘキヲ以テナリ(第七)英佛米獨ノ諸國ニ於ケル如キハ其商業ノ大部分ハ海上ニ依ルカ故ニ捕獲ヲ廢止スルハ其各國ノ利益ナリ何トナレハ軍艦ヲ以テ多數ノ商船ヲ防禦スルノ困難ナルニ反シ巡洋艦一艘ハ多數ノ商船ヲ攻撃シ得ルカ故ニ捕獲ヲ廢止スルトキハ商船防禦ノ必要ナクシテ海軍ノ全力ヲ以テ戰闘又ハ封鎖ノ用ニ供シ得ヘシト云フニ在リ

之ニ反シテ海上捕獲ヲ辯護スル者ハ第二戰争ハ國家間ノ公争ナレトモ私人ニ

關係ナシトスルハ法理ニ背キ事實ニ反ス私有財產ハ敵國ノ戰闘力ヲ助クルノミナラス海上ノ商業ハ敵國ニ取り最モ大ナル財源ナルカ故ニ之ヲ攻擊シテ其財源ヲ涸渢スルハ速ニ戰爭ノ目的ヲ達スルノ有力ナル手段ナリ又私人ノ利益ヲ害スルノ故ヲ以テ此重要ノ權利ヲ行フヘカラストスルハ私人ノ利益ノ爲メ國家ノ利益ヲ犠牲ニ供スヘシト云フニ外ナラス第二商船ハ運送船其他戰争ニ缺クヘカラサル使用ニ供セラルルカ故ニ之ヲ押收スルハ敵國ノ戰闘力ヲ減殺スル上ニ於テ大ナル效力アルカ故ニ其行爲ノ性質上決シテ不法ニ非ス(第三)海上捕獲ハ陸戰ニ於ケル徵發取立金ト同一ナルノミナラス陸上ニ於ケル私有財產ノ尊重ハ事實上占領者ノ利益ニ基キ軍隊ノ成功ヲ圖ルノ利害關係上其尊重ノ必要アリト雖モ海上ニ於テハ全ク之ニ反シ敵國戰闘ノ資料及ヒ財源ヲ涸渢シテ戰爭ノ目的ヲ達スルハ自己ノ利益ナリ(第四)私有財產ノ海上捕獲ハ其結果ニ於テ掠奪ノ行爲ニ近シト雖モ陸上ニ於ケル私有財產不可侵モ亦事實上其實行ノ範圍カ明確ナラサルニ依リ軍隊カ苛酷ノ徵發取立金ヲ命スルトキハ多數ノ箇人ニ對スル掠奪ト其結果ヲ同一ニ爲スカ故ニ既ニ徵發取立金ヲ正當ト爲

ス以上ハ獨リ海上捕獲ヲ不當ト爲スコト能ハズ(第五)海上捕獲ハ陸上ノ如ク之カ爲メ直接ニ簡人ノ生活及セ家族ノ平穩ヲ棄ルコトナク其生命身體ニ危害ヲ及ホサス單ニ捕獲ヲ知リナカラ其危險ヲ冒シテ航海スル者ノ財產ヲ押收スルニ過キサルノミナラス近世海上保險ノ發達ニ依リ其損害ハ必スシモ所有者一人ニテ全額ノ負擔ニ終ラザルモノアリ第六國家ニ依リテハ多クノ海軍ヲ有シナカラ陸軍ノ大ナルモノアリ又大ナル海軍ヲ有スルノ必要ナクシテ優勢ナル陸軍ヲ有スルモノアリ此等兩國間ニ戰爭アルニ際シ捕獲ノ廢止ハ海軍國ノ不利益ニシテ陸軍國ハ自由ニ徵發取立金ヲ占領地ニ行ヒ得ヘシ加之海上捕獲ノ爲メ敵國ノ船舶カ海上ニ出ツルコト能ハス中立國ニ船籍ヲ移スカ又ハ商品ノ運搬ヲ中立國船舶ニ依頼スルノ不利益ハ其商業ニ對スル打擊ナルノミナラス實際敵國ニ於テ其商業ノ材料アル間ハ商品ヲ悉ク中立國船舶ニ依頼シ得ヘキモノニ非ス又船籍ヲ中立國ニ移スモ必シモ捕獲ヲ免ルヘキモノニ非ス(第七)海上捕獲ノ存在ハ戰爭ヲシテ私人ノ利害ニ直接關係ヲ有キシメ之カ爲メ一般ニ戰爭ヲ不人望ト爲シ之ヲ未廟ニ防クノ利アルカ故ニ政策上ニ於テモ之ヲ廢止ス

### 第一項 拿捕ノ方法及ヒ船舶・載貨ノ國性

交戰國軍艦ハ中立國ノ軍艦其他ノ官船ヲ除キ海上ニ於テ遭遇スル一切ノ船舶ニ實彈ヲ込メシテ發スル空砲又ハ彈丸ヲ込ムルモ其的ヲ外シテ發射スル虛砲ヲ以テ其進行ノ停止ヲ命スルノ權利アリテ之ヲ停航權ト稱ス交戰國軍艦ヨリ停航ヲ命セラレタルトキハ縱令中立國ノ船舶ト雖モ直ニ其進航ヲ停止スルノ義務ヲ有シ其命令アリタルニ拘ヘラス尙ホ進航ヲ繼續スルトキハ交戰

國軍艦ハ之ヲ窮追シ兵力ヲ以テ停止シ得ヘク軍艦ヨリ士官一名ニ相當ノ水兵ヲ端舟ニテ停航船舶ニ派遣シ其士官ノ外二名又ハ三名ノ水兵ヲ其船舶ニ乗移ラシメ船籍證明書乘組員名簿通航券航海日誌船積證書送狀積荷目錄等船舶備附ノ書類ヲ船長ヨリ提出セシメ之ニ依リ其船舶ノ國籍航海ノ目的積荷ノ種類及ヒ到達地等ヲ調査シ尙ホ其點ニ疑アルトキハ訊問シテ之ヲ憶ムルヲ、臨檢權ト稱シ其臨檢ノ結果ニシテ拿捕スヘキ船舶又ハ載貨ニ非ナルコト疑ナキトキハ臨檢員ハ其旨ヲ航海日誌ニ記載シテ同船ヲシテ航行ヲ繼續セシメ之ニ反シナ臨檢ニ際シ船舶ニ備附ケアルヘキ書類ノ整頓ヲ缺キ又ハ不明ノ點アルカ若クハ偽造、變造又ハ祕密ノ書類アルトキ若クハ其他ニ付キ拿捕スヘキ嫌疑アルトキハ臨檢員ハ船長又ハ其代理人ノ立會ヲ以テ船内ヲ點検シ其閉鎖ノ場所若クハ貨物ヲ開披セシメテ検査シ得ヘタ此權利ヲ搜索權ト稱ス而シテ臨檢、搜索ヲ行使シタル結果ニシテ何等捕獲スヘキ船舶又ハ載貨ノ疑ナキモノハ直チニ放免シ若シ捕獲スヘキモノナルコト明白ナルカ又ハ其嫌疑アルモノハ軍艦ニ於テ之ヲ自國ノ捕獲審檢所ニ迴送シ其裁判ニ依リテ沒收ト否トヲ決スルモノ

ヲ代表シ其業務ヲ執行スルヲ任ニ當ルコト恰モ株式會社ノ取締役ト合資會社ノ業務擔當社員トノ兩資格ヲ兼ヌルカ如シ即チ此種ノ會社ハ合資會社ト株式會社トノ中間ニ位スルモノニシテ或程度ニ於テ双方ノ長所ト短所トヲ併有スルモノタリ

## 第六章 土地、資本人私有制度

### 第一節 所有權

前章ニ述ヘタルカ如ク今日ノ社會ニ於テハ生産ハ主トシテ私人ノ企業ニ依リテ行ハルルモノニシテ是レ蓋シ生產ニ必要ナル土地及ヒ資本ヲ個人ノ私有ニ屬スルヲ以テナリ而シテ土地、資本ノ私有ハ所有權及ヒ相續權ノ形體ヲ以テ現ハルルモノトス先ツ所有權ニ就ク少シク之ヲ說カシテ其真實ノ眞況ヲ悉く所有權ノ定義ニ至リテハ各國ノ法律多少ノ差異ヲ示スト雖モ要スルニ其所有ニ屬スル財貨ヲ自由ニ使用、收益及ヒ處分スルノ權利ヲ謂フサリ然レトモ所有權ハ決シテ絕對的ノモノニ非ヌ例ヘハ我民法ハ「法令ノ制限内ニ於テ外云々實

廢所有權ハ種種ノ制限ヲ蒙ルモノトス即ち家屋ノ所有權ハ收用法ニ對抗スルコト能ムアルカ如キ是ナリ。然れども、各國ノ法律必し、差異ニ存ス。其後、所有權ハ各種ノ財貨ニ對応テ同時ニ生シタルモノニ非ス其成立ノ順序ヲ考フルニ自己ノ製作シタル財貨及ヒ自己ノ使用スル物品ニ起リテ漸次ニ他ノ動産ニ及ホシ土地ノ所有權ノ生セルハ爾來數多ノ星霜ヲ經タル後ナリトス蓋シ土地ハ初メ共同ニ之ヲ使用シ次テ各人ハ分チテ之ヲ使用セシムルモ時時之ヲ返却セシメテ更ニ各人ハ分ツノ制度ヲ生セルナリ而シラ人口蕃殖シ從來ノ收穫ヲ以テ其欲望ヲ滿足セシムルコト能ハサルニ至リテハ勞働ヲ増シ資本ヲ投シテ土地ノ生産力ヲ増加セシメサルヘカラスト雖モ其勞働資本ノ結果ニシテ他人ノ利益ニ歸スル如キコトアランニハ何人モ勞働ヲ増シ資本ヲ投スルコトヲ躊躇スヘキオリ是ヲ以テ各人ヲシテ永久ニ土地ヲ使用セシムルノ必要自ラ生シ遂ニ各人イ享有セル一時的ノ使用權ハ變シテ所有權ト爲フ土地モ亦其大部分ヲ個人ノ私有ニ歸スルニ至ルナリ。

土地資本ノ私有制度ハ現今諸國ニ於ケル社會組織ノ基礎ニシテ國家ハ所有權ニ對シテ多少ノ制限ヲ加フルト雖モ之カ安固ヲ保障スルニ至リテハ毫モ怠ル所ナシ蓋シ土地資本ノ私有制度ハ其所有者ヲシテ土地資本ヨリ生スル結果ヲ十分ニ享有セシムルト共ニ其結果ノ多少ハ殆ト全ク所有者ノ意思ト使用ノ巧拙トニ依ルモノナルカ故ニ所有者ハ種種ノ手段方法ヲ其土地又ハ資本ニ應用シテ以テ最大ノ效果ヲ得ルコトヲ努力トス是ヲ以テ土地資本ノ私有制度ハ小ニシテハ各所有者ノ收益ヲ増シ大ニシテ一國ノ生産ヲ進ムル所以ナリトス然レトモ土地、資本ノ私有制度モ亦弊害ノ之伴フアルヲ免レス例へハ現今社會ニ於ケル貧富ノ懸隔權力ノ強弱等ハ主トシテ土地、資本ノ私有制度ニ因スルモノニシテ社會主義ノ論者ハ之ヲ以テ勞働者ニ對スル盜奪ト爲シ地主及ヒ資本家ハ勞働者カ勞働シテ得タル結果ヲ横領シテ不當ノ利益ヲ享有スルモノト爲スナリ。然れども、社會主義者ハ之ヲ以テ勞働者ニ對スル盜奪セバ、其財貨本ハイテハ、然ラハ則テ土地、資本ノ私有制度ハ不正背理ノモノナル。古來土地、資本ノ私有制度カ何故ニ成立シ又何故ニ正當ナルヤ、論スル者少カラス而シテ此等ノ學

説ハ一見相反シテ互ニ容レサルカ如シト雖モ決シテ然ラス寧ロ相輔ヒ相援ケ  
テ始メテ稍ヤ完全ナルヲ得ルモノトス左ニ主要ナル學説ヲ列舉セン  
第一 占有説 此説ニ於テハ未タ何人ニモ屬セサル財貨ヲ占有スルトキハ之  
カ所有權ヲ得ルモノト爲スナリ隨テ此説ニ於テハ占有ノ承認ト之カ保護トノ  
成立スル社會ヲ想像セサルヘカラス何トナレハ占有者カ自ラ其占有ヲ全ウス  
ルノ實力アラサルニ於テハ此二條件ヲ特チテ始メテ所有權ハ實際ニ成立スル  
コトヲ得レハナリ而シテ占有セル財貨カ容易ニ携帶シ若クハ貯藏シ得ヘキ動  
產ナルトキハ此説ヲ以テ或ハ所有權ノ起源ヲ説明シ得ヘタ又實際占有ニ起因  
スル所有權少カラナルヘシト雖モ土地ノ所有權ニ至リテハ大ニ其趣ヲ異ニス  
ルモノアルナリ即チ土地ハ未タ特ニ何人ニモ屬セサリシ時代ト雖モ全ク無主物  
物タルコトナク佃農民族ノ狩場牧畜民族ノ牧場ハ常ニ其民族ノ共有ニ屬シ農  
耕時代ノ初期ニ於テモ仍ホ其狀態ヲ繼續セリ故ニ土地所有權ノ原因ヲ無主物  
ノ占有ニ歸スルヲ得サルナリ

## 第二 勞働説 勞働ハ財貨ノ生産ニ必要缺クヘカラサルモノナルカ故ニ勞働

者ハ其結果タル財貨ヲ所有スル權利ヲ得ルモノナリ若シ節約シテ此財貨ヲ貯  
藏シタル場合ニヘ此財貨ハ勿論之ヲ節約時藏シタル者ノ所有ニ屬スヘキモノ  
トス又土地ハ勞働ヲ加フルニ非サレハ生産ヲ爲スコト能ハナルカ故ニ土地ニ  
加ヘタル勞働ハ其土地ニ對スル所有權ヲ生スヘキモノトス是レ即チ所謂勞働  
説ナルモノノ唱フル所ナリ蓋シ勞働ハ生産ニ必要ナル唯一ノ要素ニ非ヌ自然  
及ヒ資本ノ協同ヲ得テ始メテ效力ヲ生スルモノナルカ故ニ生産ノ結果ニ對ス  
ル所有權ハ勞働ノミニ歸スルコトヲ得サルナリ且之ヲ現今ノ實際ニ徵スルニ  
地主ハ毫モ勞働ヲ爲サシテ地代ヲ收ムルニ非スヤ若シ勞働ヲ以テ所有權ノ  
基礎ト爲ストキハ此等ノ土地ノ所有權ハ之ヲ耕作スル勞働者ニ與ヘナルヘカ  
ラス是レ即チ現在ノ所有權制度ニ反スルモノニ非セヤ「グチル曰ク『勞働説ハ  
貴重ニシテ而モ正當ナル要素ヲ含ムモノニシテ勞働カ所有權獲得ノ方法タル  
コト次第ニ普及シテ他ノ方法ヲ排除スルニ至ルコトハ實ニ所有權制度ノ理想  
ナリトス然レトモ是レ寧ロ所有權制度終局ノ目的タルニ止マリ之ヲ以テ所有  
權制度發達ノ濫觴ト爲スコトヲ得スト

第三 人性說　此說ハ所有權ヲ以テ人類天賦ノ性質ニ基クモノト爲シ所有權ヲ以テ天賦ノ權利ト爲シ國家ノ承認ヲ待テ始メテ成立スルモノニ非ス國家ハ所有權ニ對シテ多少ノ制限ヲ加フルコトヲ得ルト雖モ決シテ之ヲ廢止スルコト能ハサルモノト爲スナリ此說ハ何故ニ所有權カ人類ノ生存發達ニ必要缺クヘカラサルモノナルヤフ説明セス唯必要ナルカ故ニ成立シ且正當ナリト云フニ在ルヲ以テ亦所有權ヲ辯護スルニ於テ十分ナリト謂フヲ得サルナリ現今ノ社會ニ於テハ所有權ノ享有ニ著シキ懸隔ヲ現ハシ多數ノ人ハ僅ニ生活ヲ維持スルニ足ルヘキ些少ノ財貨ニ對シテ所有權ヲ有スルノミ若シ夫レ所有權ヲ以テ人類ノ生存發達ニ必要ナルモノトセハ所有權ノ享有ヲ普通一般ナラシメ何人モ多少ノ土地資本ヲ有セシメサルヘカラサルナリ然ラム則チ今日實際成立スル所有權有ノ不平均殊ニ巨額ノ財產ニ對スル所有權ハ果シテ其存在ヲ承認スヘキモノナルヤ疑ナキヲ得サルナリ

第四 法定說　此說ニ依レハ所有權ハ國家ノ承認ヲ得テ始メテ成立スルモノ

ニシテ國家カ之ヲ承認スルハ所有權ノ制度ヲ以テ社會全般ニ利益アリト思惟スレハナリ而シテ國家ハ所有權ノ淵源ナムカ故ニ之ニ對シテ制限ヲ設ケ得ルノミナラス之ヲ廢止スルコトヲ得ルモノト爲スナリ此說ハ國家ナル觀念ヲ必要ナリト爲スモノニシテ所有權モ他ノ權利ト同シク國家ノ承認保護ヲ得テ始メテ成立シ得ルモノナルヤ疑ナシト雖モ何故ニ所有權ノ制度カ社會全般ノ利益ノ爲メニ必要ナルヤノ理由ニ至リテハ一概ニ之ヲ論スルコトヲ得ス是レ即チ第五ノ學說ノ起レル所以ナリ

第五 財貨ノ種類ニ依リ承認ノ理由ヲ異ニスルノ説所有權ノ制度モ亦幾多ノ變遷沿革ヲ經テ始メテ今日ノ狀態ヲ呈セルモノニシテ何レノ地何レノ時ヲ問ハス所有權ノ制度ハ必ス社會全般ノ利益ニ適スルモノト謂フヲ得ス佃獵時代牧畜時代又ハ農耕時代ノ初期ニ於ケル土地共有ノ制度ハ當時ノ社會ニ適應セルヤ必セリ爾來社會進歩シテ箇人ノ獨立發達スルニ從ヒ所有權ノ必要ヲ生セルナリ而シテ今日ニ於テ國家カ所有權ヲ承認スル理由ハ財貨ノ種類ニ依リテ同シキヲ得ス即チ食物衣服ニ對スル所有權ノ如キハ殆ド絕對的ニ必要ナ

リトス何トナレハ食物ハ性質上共有スルコトヲ得ス衣服ハ共有シ得タルニ非  
ナルモ共有ハ甚タ困難ナレハナリ又家屋ハ實際所有者ト居住者ト同一人ナラ  
サル場合甚タ多シト雖モ居住者即チ所有者タルコトヲ希望セスンハ非ナルナ  
リ故ニ衣食住ニ關スル所有權ハ之ヲ承認スヘキ理由極メテ強固ナリトス生産  
資本及ヒ土地ニ至リテハ少シク其趣ヲ異ニシ國家カ此等ノ財貨ニ對スル所有  
權ヲ承認スル所以ハ他ナシ各人ヲシテ箇箇別別ニ之ヲ所有セシムルハ之ヲ共  
有ニ屬セシムルニ比シ利用甚タ大ニシテ社會全般ノ利益隨テ多シト爲セハナ  
リ故ニ共有ヲ以テ寧ロ社會ニ利益多シト爲ス場合ニハ私有ヲ廢スルコトナシ  
トセス例へハ道路ノ如キ殆皆國家若クハ自治體ノ有ニ屬シ森林ノ如キモ國  
有ナルモノ少カラス又鐵道給水瓦斯電燈等ノ獨占的事業ヲシテ私人ノ所有權  
ニ屬セシメス國家若クハ自治體自ラ之ヲ經營スル場合亦稀ナリト爲ササルナ  
リ之ヲ要スルニ所有權ノ制度カ今日成立スルハ國家之ヲ承認スレハナリ而シ  
テ國家カ之ヲ承認スルハ之ヲ以テ社會全般ニ利益多シト思惟スレハナリ故ニ  
國家カ此制度ヲ以テ社會全般ノ爲メニ不利益ナリト認ムルノ日來ルアラハ竟

## 雜報

○迎新余輩ハ茲ニ法政大學トシテヨリ大ナル歎ヲ以テ新ニ歲月ヲ迎ヘ恭  
シク寶詣人無窮フ祝シ奉リ讀者諸君人健康ト幸福トヲ祈リ併セテ一言諸君  
ニ稟クヘキコトアリ他ナシ本校ハ講義錄ニ於テ一年完結制ノ創始者タルニ拘  
ハラス翼翼トシテ實質ノ精良ナランコトヲ努メタル人結果三十二年度乃至三  
十五年度ニ亘リ屢ニ失シタリシモ漸次整理シ來リ三十六年度ニ至リテハ  
大ニ増刷シ期ニ先テ既ニ完結シ三十七年度即チ本講義錄ニ至リテハ其實質  
ノ他ニ卓越スルト其ニ必ス滿一年以内ニ完結セシムルコトヲ聲明スルコト是  
ナリ諸子請フ益々愛讀ノ榮ヲ垂レントラ  
○地上權讓受人ノ登記ト土地所有者・地上權者ヨリ地上權ヲ讓受ケタル者  
ハ登記ヲ要セシテ土地所有權者ニ對抗スルコトヲ得ベキカ大審院人判決理  
由ニ曰ク「不動產ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更ハ其登記ヲ爲スニ非テレハ之ヲ  
以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ナルハ上告論旨ノ如ク民法第百七十七條ノ明

定スル所ナリト雖モ原審ニ於ケル確定事實ニ依レテ上告人之地所所有者ニ  
テ山田茂英ノ爲メニ設定シタルモノト推定スヘキ地上權又被上告人ニ於テ讓  
受タルモノナルカ故ニ單ニ其讓渡關係ヨリスレバ山田茂英ハ被上告人ノ前主ナル  
ト雖モ物權關係ヨリスレバ山田茂英ハ被上告人ノ前主ナルテ上告人ハ山田茂  
英ノ前主ナルヲ以テ承繼人タル被上告人カ其地上權ヲ以テ上告人ニ對抗スル  
ニ登記ヲ要スル節合ナケレハ上告人ハ該條ノ所謂第三者ニアガタト(大審院明  
治三十五年十一月十六日第二民事部判決明治三十六年十一月十六日第二民事部判決)本審院ニ至リテ其實質  
○新舊法ノ比照其凡ノ吾人ノ行動ハ行動ノ當時ニ行ハルム法令ニ由リテ支  
配セラルムモノニシテ行動後ニ公布セラレタル法令ヲ以テ其行動ノ實質ヲ決  
セラルベキモノニ非ス唯其行動ノ實質ニ影響セサル所ハ手續法令又ハ刑法第  
三條第二項ノ如キ特例アル場合ニ於テノミ行動後ノ法令ヲ以テ支配スルコト  
ヲ得ヘキヲ原則トスルモノナリ故ニ一行動ニ對シ新舊號ハム法令ヲ適用ズル  
モ同一結果ヲ生スル場合ニ於テモ仍ホ舊法ヲ適用セサルヘカラナルナリ是レ  
殆ト疑ナキ法理ニシテ大審院モ亦認ムル所ナリト曰ク刑法第三條第一項ニ法律

ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ストアリ而シテ本件ノ犯罪ハ明治三  
十六年三月ニシテ明治三十六年勅令第七十三號ノ頒布以前ニ係ルヲ以テ之ヲ  
該犯罪ニ適用スルコトヲ得ヘキモノニ非ス尤モ新法ノ刑舊法ノ刑ヨリ輕キ場  
合ニ付テハ刑法第三條第二項ノ例外アリト雖モ右第七十三號ノ刑ハ全ク同  
ナルカ故ニ該例外ノ場合ニ該當セス又舊法タル明治三十五年勅令第二百五  
六號ノ刑ハ前掲第七十三號ノ勅令ニ依リ廢止セラレタルモノニ非サルカ故ニ  
其當時ノ犯罪ニ對シテ之ヲ適用スルヲ當然ナリトスト(大審院明治三十六年(九  
白鋼貨輸出事件明治三十六年十二月六日大審院判決)判決)

○清國ニ於ケル鐵道 日清戰爭後露國カ清國ニ對沐東清鐵道外敷設權ヲ獲  
得セシ以來各國爭ヒテ敷設權ヲ要求シタリシカ今ヤ既設工事線四千五百五十七  
哩ニ達シ其細別左ノ如シト云フ

東清鐵道露國國境ヨリ旅順ニ至ル本支線共 露國 一〇六二  
關外鐵道(營口山海關天津間) 同 一七八

津沽鐵道(天津太沽間)

京津鐵道(天津北京間)

京通鐵道(北京通州間)

津浦鐵道(天津漢口間)

粵漢鐵道(廣東漢口間)

山東鐵道(濟南膠州間)

大治鐵道(長江岸石灰屆大治鐵山間)

澤懷鐵道(澤州懷慶間)

萍醴鐵道(萍鄉醴陵間)

此他尙未計畫

一千八百五十哩

一千九百五十哩

一月  
司法省指定  
立 法 政 大 學

司法省指定

立 法 政 大 學

## ○校外生募集廣告

本大學三十一年度講義錄ハ之ヲ三學年ニ分チ各學年其十月ヨリ毎月三回發行滿一箇年ヲ以テ必ス完結セシム〇月謝金ハ各學年共金五十錢但官公衙在職者(證明書ヲ要ス)及ヒ本大學校友ノ紹介アル者ハ金四十五錢トス、總テ入學金ヲ要セス、志願者ハ至急申込ムヘシ(校友ノ紹介ニ依ル者ハ一月分ヨリ各學年金三十五錢全學年金一圓トス)

### 各學年講義錄掲載科目及ヒ擔任講師

第一學年	法學通論 中村博士、憲法 潤水學士、民法總則第三章 マテ 梅博士、同第四章以下 岩木學士、物權第六章 マテ 田中博士、債權第一章第三節 マテ 梅博士、同第四、五節 中山學士、利法 機論 谷野學士、國際公法平時 中村博士、戰時 秋山學士、經濟學 山崎學士
第二學年	債權第二章 梅博士、同第三章以下 田代學士、利法各論 古賀學士、商法總則、會社 松本學士、商行為第九章 マテ 田坂學士、同第十章 村上學士、民事訴訟法第一編 仁井田博士、同第二編 岩田學士、利事訴訟法 豊島學士、財政學 関學士
第三學年	物權第七章以下 仁井博士、親族 掛下學士、相續 若林學士、手形 矢部學士、海商 加藤學士 行政法總論 美濃部博士、同各論 上杉學士、國際私法 山田博士、民事訴訟法第三編以下第五編 マテ 遠藤學士、同第六編以下、破產法 松岡學士

